

福祉援護センターのあり方に 関するアンケート調査結果

(かがみ田苑)

令和5年8月

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方を検討する際の参考資料として活用することを目的として、利用者とその保護者をはじめ、支援学校の生徒や障害福祉サービス事業所を対象としたアンケートを実施しました。

福祉援護センターのあり方に関する懇話会

目次

1 アンケートの目的	1
2 アンケートの概要	1
3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問	2
問1 福祉援護センター（かがみ田苑）の何のサービスを利用していますか？ ・利用していましたか？.....	2
問2 福祉援護センター（かがみ田苑）の場所は通いやすいと思いますか？ ・通いやすかったと思いますか？.....	3
問3 福祉援護センターの卒苑後の行き先について、不安がありますか？ ・不安がありましたか？.....	6
問4 福祉援護センターを卒苑した後の進路先として、どのような候補を 考えていますか？・考えていましたか？.....	9
3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問	11
問1 どちらの学校に通われていますか？.....	11
問2 支援学校卒業後の進路先として、どのような候補を考えていますか？.....	12
問3 支援学校卒業後の進路先として、福祉援護センターを利用することを 考えていますか？.....	14
3-3 アンケート調査結果 共通設問	16
① 福祉援護センターにどのような資質や意義、機能、役割を期待して いますか？	16
② 今後、福祉援護センターでは、どのような事業（サービス）を積極的に 実施することが望ましいと思いますか？.....	22
③ 福祉援護センターでは、市立の施設として多くの人に利用してもらうと いう公平性の観点と、訓練のための通過施設としての位置付けから、利用 期限を6年としています。利用期限について、どのようにお考えですか？....	28
④ 福祉援護センターは、「指定管理者制度」により運営され、『公募』により 事業者の選考を行っていますが、運営主体の選考方法について、どのように お考えですか？	34
⑤ 各設問の回答欄に書ききれなかった内容やその他ご意見がある場合には、 記入してください。.....	39
4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）	45

■ 本アンケート調査結果の表記について

- ・ 回答率は小数点以下第 1 位を四捨五入した整数で表しています。
- ・ グラフ中の「n（回答者数）」は、各設問に該当する回答者の総数を表しています。
- ・ 選択肢から 1 つを選択する設問において、複数の回答をしている人があるため、回答者数と回答数の合計が一致しない場合があります。
- ・ 理由などの記述された回答内容は、記載されたニュアンスが伝わるよう明らかな誤字や脱字なども含めて一語一句、そのまま表記しています。ただし、判読、識別不能な文字については 1 文字を「＊」で表記し、氏名などの個人情報や個人が特定される恐れのある記述については、1 文字を「○」で表記するなどしています。また、自由意見欄（共通設問⑤ p. 39～）については、同一の主旨のものについては集約し、長文や個人が特定される可能性のある回答内容等については、要約するなどして記載しています。

1 アンケートの目的

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方については、令和3年度に「福祉援護センターのあり方に関する懇話会」を設置し、学識経験者や地域における障害福祉関係者等により、次期指定管理の選考に向けて具体的な事業内容等について議論を進めています。

今後の福祉援護センターのあり方や懇話会の議論に役立てることを目的として、実際の利用者の立場として「利用者とその保護者」及び「卒苑者とその保護者」、今後、利用を検討する立場として「支援学校生徒及びその保護者」、利用者福祉援護センターとの橋渡しを行う立場として「市内の相談支援事業所」を対象としたアンケート調査を実施しました。

2 アンケートの概要

(1) 調査対象者及び調査方法

調査対象者	アンケート配付方法
福祉援護センターの利用者とその保護者（以下「利用者」と表記）	事前に福祉援護センターにアンケート調査用紙を必要部数提供し、施設職員から配付
福祉援護センターの卒苑者とその保護者（以下「卒苑者」と表記）	市（福祉施設課）からアンケート調査用紙を郵送
県立武山支援学校及び県立岩戸支援学校高等部3年生とその保護者（以下「支援学校」と表記）	各支援学校にアンケート調査用紙を必要部数提供し、教員等から対象の生徒または保護者にアンケート調査用紙を配付
市内の相談支援事業所（以下「相談支援事業所」と表記）	市（福祉施設課）から各事業所にアンケート調査用紙を郵送

※いずれも市（福祉施設課）あての返信用封筒（切手不要）を同封し、郵送により回答

(2) アンケート調査期間

令和5年6月26日（月）～令和5年7月31日（月）

(3) アンケートの回答状況

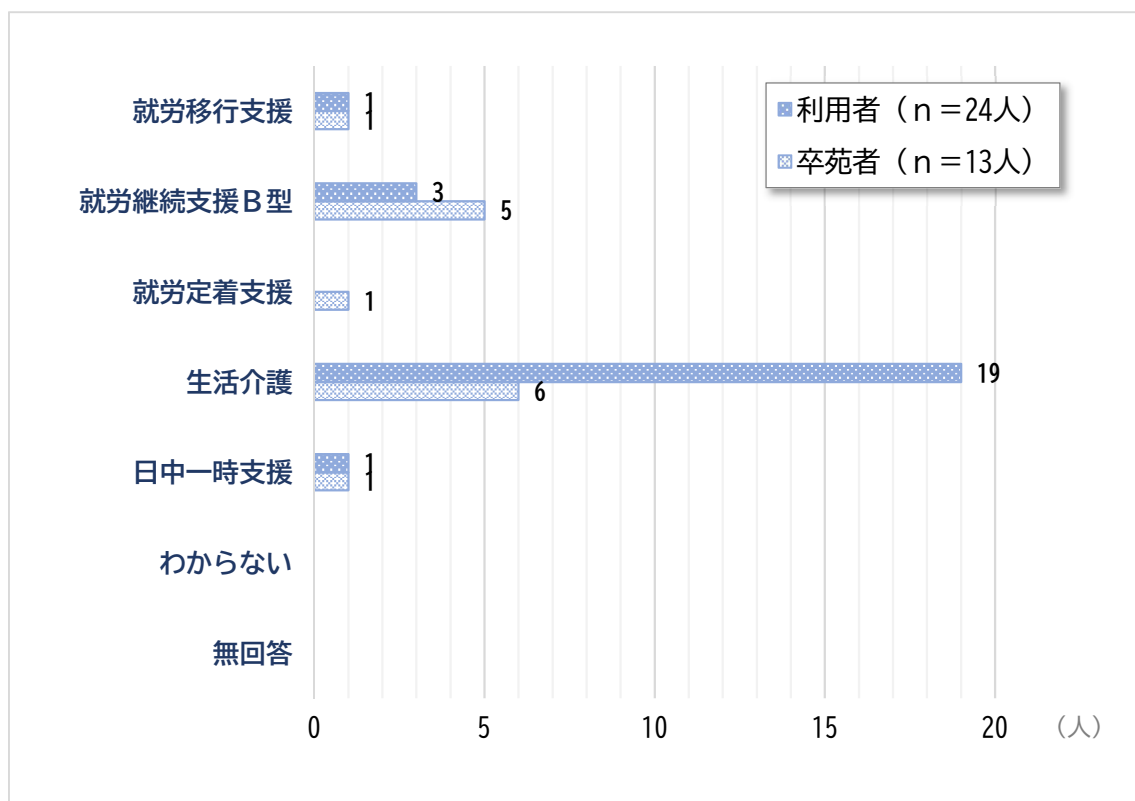
調査対象者	配付数	回答数	回答率
利用者	69	24	34.8%
卒苑者	33	13	39.4%
支援学校	81	20	24.7%
相談支援事業所	21	12	57.1%
合計	204	69	33.8%

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問1）

問1 福祉援護センター（かがみ田苑）の何のサービスを利用していますか？・利用していましたか？

No.	回答選択肢	利用者（n=24人）		卒苑者（n=13人）	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	就労移行支援	1	4.2%	1	7.1%
2	就労継続支援B型	3	12.5%	5	35.7%
3	就労定着支援	0	0.0%	1	7.1%
4	生活介護	19	79.2%	6	42.9%
5	日中一時支援	1	4.2%	1	7.1%
6	わからない	0	0.0%	0	0.0%
—	無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計		24	100.0%	14	100.0%

※「卒苑者」は複数回答している回答者があるため、回答数の合計が一致しない



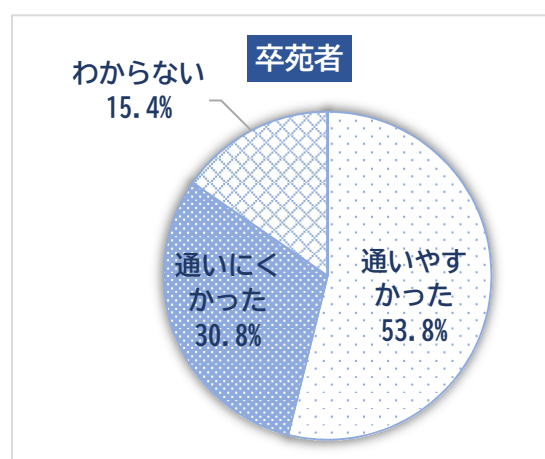
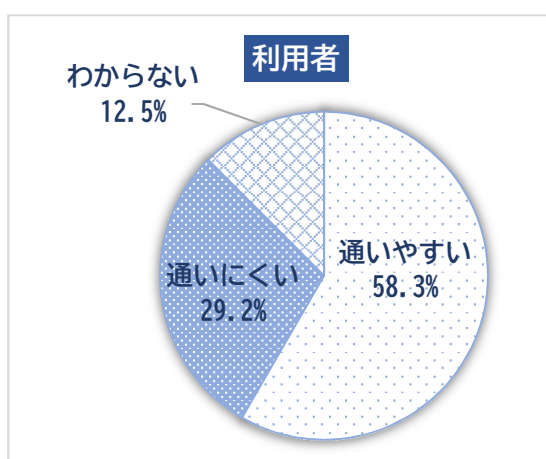
▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターの「利用者」が利用している、または「卒苑者」が利用していたサービスの種類については、「利用者」「卒苑者」とともに、『生活介護』が最も多く、合計では25人（65.8%）を占め、次いで『就労継続支援B型』が8人（21.1%）を占める結果となりました。

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問2）

問2 福祉援護センター（かがみ田苑）の場所は通いやすいと思いますか？・通いやすかったと思いますか？

No.	回答選択肢	利用者		卒苑者	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	通いやすい・通いやすかった	14	58.3%	7	53.8%
2	通いにくい・通いにくかった	7	29.2%	4	30.8%
3	わからない	3	12.5%	2	15.4%
—	無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計		24	100.0%	13	100.0%



【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】

① 通いやすい・通いやすかった

■ 利用者

（理由記入数＝13/選択肢回答数＝14）

本人に嫌な事を強要せずに意志を尊重してくださるので有難いです。

- ・送迎時、駐車場が広く、又、スタッフさんの誘導もあり、近隣にご迷惑をかけないで済むこと。
（車（自家用車）通所の場合は通いやすく、便利だと思います。）
- ・駅から近い訳ではありませんが、街中より奇声などでご迷惑をかけずに済むのでよいと思います。

家から近いから・・・

- ・仕事場が近く何かあった時でもすぐ迎えに行きやすい
- ・ナースが勤務されているため、とても安心しています

交通の便が良い

JR 久里浜駅前からの送迎バスがあること。
とても助かり、安心です。

現在移動支援をお願いして通苑しているので

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問2）

	母親が車で送迎しているので。家からも近く駐車しやすい。 送迎バスが JR 久里浜からでているから 駐車スペースが広く、送迎時混雑してても近隣にあまり迷惑をかける事もない。 自宅からは少し遠いですが、自家用車があるので通いやすい。 もう少し近ければ言うことなし！です。 （でも車がなければ通いにくいと思います。） ・ 事業者に移動支援（送迎）をお願いしているため。 自宅から近いから。
	■ 卒苑者 (理由記入数 = 7 / 選択肢回答数 = 7) 上りより下りの方面の方が通いやすかったです。車でお送りむかえもありましたからです。 駅より苑バスの送迎があり良かったと感じました。 JR 久里浜駅から送迎バスが出ていたので利用していた。 特になし 電車 1 本乗って駅からは送迎車があった為 バスで通いやすかったです 送迎の車で道路も広く駐車場もあった。
② 通いにくい・通いにくかった	
	■ 利用者 (理由記入数 = 7 / 選択肢回答数 = 7) 駅から遠い、バスの本数が少ない 現在は搬送（かがみ田苑）を利用しているので不便はないのですが、何かあって早く迎えに行く時は、バスかタクシーになります。 業者の移動支援を使用している 月に 2 万円前後の費用負担が有る バスに乗り遅れると面倒なことになる。路線バスで来た時に歩道が荒れていて負傷してしまった。 通苑時に公共交通機関（バス）を使用しているが、本数が少ないので乗れない時は徒歩などで行くしかない。すこし不便だと思ふことがある。 車のない方は大変だと思います。 場所と環境は素晴らしいのですが災害（大雨や海面上昇等）があった場合逃げ道や迎えに行く事が困難な点や、トンネルや海岸線が致命的に危ないです。 人命を守るために裏山の向こう側へ避難できる方法を検討すべきだと思います。

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問2）

	■ 卒苑者 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 4) 私の子供は移動支援を利用していたので判断が難しいのですが、知的障害者にとっては通いにくいと思います。但し、久里浜駅まで専用バスが利用できれば、楽だと思います。 車で通うのは良いが、バスだと久里浜から本数が少ない。 本人は通苑バスを行きも帰りも使用していたので良かったが、保護者が個人面談やその他行く時、バスの本数も少なく車で行かないと不便だった。
③ わからない	
	■ 利用者 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 3) どちらも言えない 送迎を使用していますが、車がなければ通いにくいと思います 何とも言い難い。台風が来ると海側の道が削れて通行止めになったり、久里浜の海岸の砂が打ち上げられて通れなくなったりする。車で通う事しかできないので渋滞などはないので送迎はしやすいが巨大地震が来てトンネルがつぶれたらアウトだなあと思う 今現在はヘルパー利用出来ている為、車では通いやすいですが公共交通機関を利用するとなると、通いにくいです。
	■ 卒苑者 (理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 2) 相互理解が難しかったため 人間関係などは職員の方々、同じ通所者の方々と時には衝突を繰り返す事も有った様ですが、何だかんだ親しみ慣れた場所となつてはいると思います。やはり本人の行動で観察していても、そう受け取れる時が有ります。

▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターの『通いやすさ』については、『かがみ田苑は立地条件が悪い』といった声が聞かれていますが、アンケート結果としては「利用者」「卒苑者」ともに、『通いやすい』または『通いやすかった』と回答した人が最も多く、全体では21人（56.8%）と半数以上を占める結果となりました。

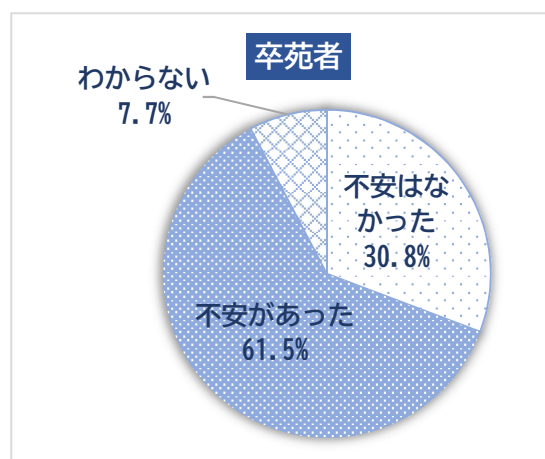
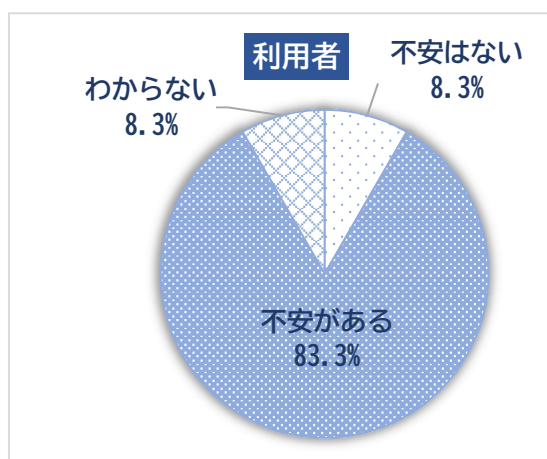
『通いやすい』または『通いやすかった』と回答した人の理由を見ると、福祉援護センターが自主事業として行っている「送迎」（久里浜駅まで）を利用していることや、自宅から近いといった回答がありました。

一方、『通いにくい』または『通いにくかった』と回答した11人（29.7%）の回答理由を見ると、『駅から遠い』『バスの本数が少ない』といった公共交通機関の不便さが理由としてあげられていました。

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問3）

問3 福祉援護センターの卒苑後の行き先について、不安がありますか？・不安がありましたか？

No.	回答選択肢	利用者		卒苑者	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	不安はない・不安はなかった	2	8.3%	4	30.8%
2	不安がある・不安があった	20	83.3%	8	61.5%
3	わからない	2	8.3%	1	7.7%
—	無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計		24	100.0%	13	100.0%



【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】

① 不安はない・不安はなかった

■ 利用者

（理由記入数＝1 / 選択肢回答数＝2）

すでに行先が決まりました

■ 卒苑者

（理由記入数＝4 / 選択肢回答数＝4）

かがみ田苑に通えてよかった所と卒苑後、鴨居デイサービスに通えてよかったと思いました。不安もなく行くことができました。

まだ在籍中

担当のスタッフの方が面倒見が良かった為

居場所（勤務先）が出来て良かったです

② 不安がある・不安があった

■ 利用者

（理由記入数＝19 / 選択肢回答数＝20）

本人が通所出きる施設がない

障害が重く、問題行動も多いので、なかなか他に適応できる施設や受け入れてくださる

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問3）

施設が見つからなくて困っている。

自宅から近い行き先を希望しておりますが、空きがないのが不安です。

行きたいと思った所に空きがないと行けないので不安しかない。

環境がかわると、食欲がなくなり、会話せず登苑拒否、坐りこんで大変です。

かがみ田苑では、手厚い支援をうけているので、同じような通所先があるのか心配です。

期限があるとのこと、合う所がすぐに見つかるとは思えない

常に利用期限を気にして、次にどこがあるのかを聞いている状態。あまりにも横須賀市内に、当苑の様な施設がない為

かがみ田苑は6年という期限付きなので、その間に地域の生活介護施設が見つけれられるのか心配です。

かがみ田苑の生活に慣れ、同じような濃い支援が受けることができるのか、本人がとまどわずに生活していけるのか、いろいろ思うところはある。

とても手がかかるので受入れ先がない。

重度重複障害の為摂食に問題があり、週数日は他の施設を利用しているが、子供に合わず、3ヶ所目でなんとか落ち着いたが週5を給食施設のない所に出されてしまうと命にかかわるので本当に怖い。家庭でフォローしているがこれ以上は無理だと思う

卒苑後に他事業所で受け入れてもらえる確約がなくなってしまった為、とても不安です。
（現在、他事業所と併用中）

生活介護の施設はどこもいっぱい希望のところに入れるかわからないのでとても不安です。

生活介護の施設を何件か見学に行ったが、どこも1日中施設の中で過ごし、簡単な作業はしているがやる気のない人はほったらかしで何もせず1日が終わるといった感じでショックを受けた。かがみ田は作業もするし、散歩やドライブにも連れて行ってくれ、広い体育館もあるので雨の日も体を動かすことが出来るのでこんな施設は他にないのでなくさないでほしいです。できれば若くて体力のある間、10年ぐらいいは通いたいです！！

本人の特性に合った施設が少いため

・移行先が見つからない（本人の事情により受入れ先が見つからない）ため。

もう1つ生活介護を利用しているがかがみ田苑のほうが本人に合っている。

障害の特性に慣れるまでに多くの期間がかかる利用者にとり（重度・重複の方を受け入れている施設の役割として）環境を変えることは混乱と問題行動を引き起こす事になる。

横須賀市内には当苑の利用者を受け入れられる施設は無い。

（今の苑のパートさんを含む仕事人はとても良い人間です）

★P.31を参照

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問3）

	■ 卒苑者 (理由記入数 = 7 / 選択肢回答数 = 8) それぞれの事業所ごとに異なる活動の為、適応し続けられるか不安だった。今はなし。 覚える事も多く、体力も使うし、とても不安、心配しています。 5年間かがみ田苑に通っていたため、他の通所者や職員さんと親しくなっていたため、どこに行くのか、新しい場所になじめるのか不安があった。 正直不安だらけです。自分の子供は多動症のため、自宅での生活介護が厳しく、入苑3年目から障害者入所支援施設を探すも、横須賀どころか神奈川県内にも22歳（当時）で入所できる同施設は皆無。結局現在〇〇県内の施設に入所に至る。神奈川県として障害者に対する行政が不十分であると考えている。 不安がない人はいないと思う 新しい場所に慣れてくれるか、又、1からのスタートで、職員さんに伝えることはいろいろある。 6年間通う中でももう少し早い時期に就職先が決まっていたので、6年間のうちぎりぎり6年目の終わりに決まったので、ずっと不安でした。 生活介護はなかなか受け入れ先がなかったの
	③ わからない ■ 利用者 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 2) 未定 ■ 卒苑者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1) (理由記入なし)

▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターの卒苑後の行き先については、全体では28人（75.7%）と8割弱の人が『不安がある』または『不安があった』と回答しています。

『不安がある』または『不安があった』と回答した人の理由を見ると、福祉援護センターの他に受入れ可能な施設が見つからないといった理由が多くある中で、『本人の特性が福祉援護センターに合っている。』や『新しい施設に馴染めるか不安がある』といった回答もありました。

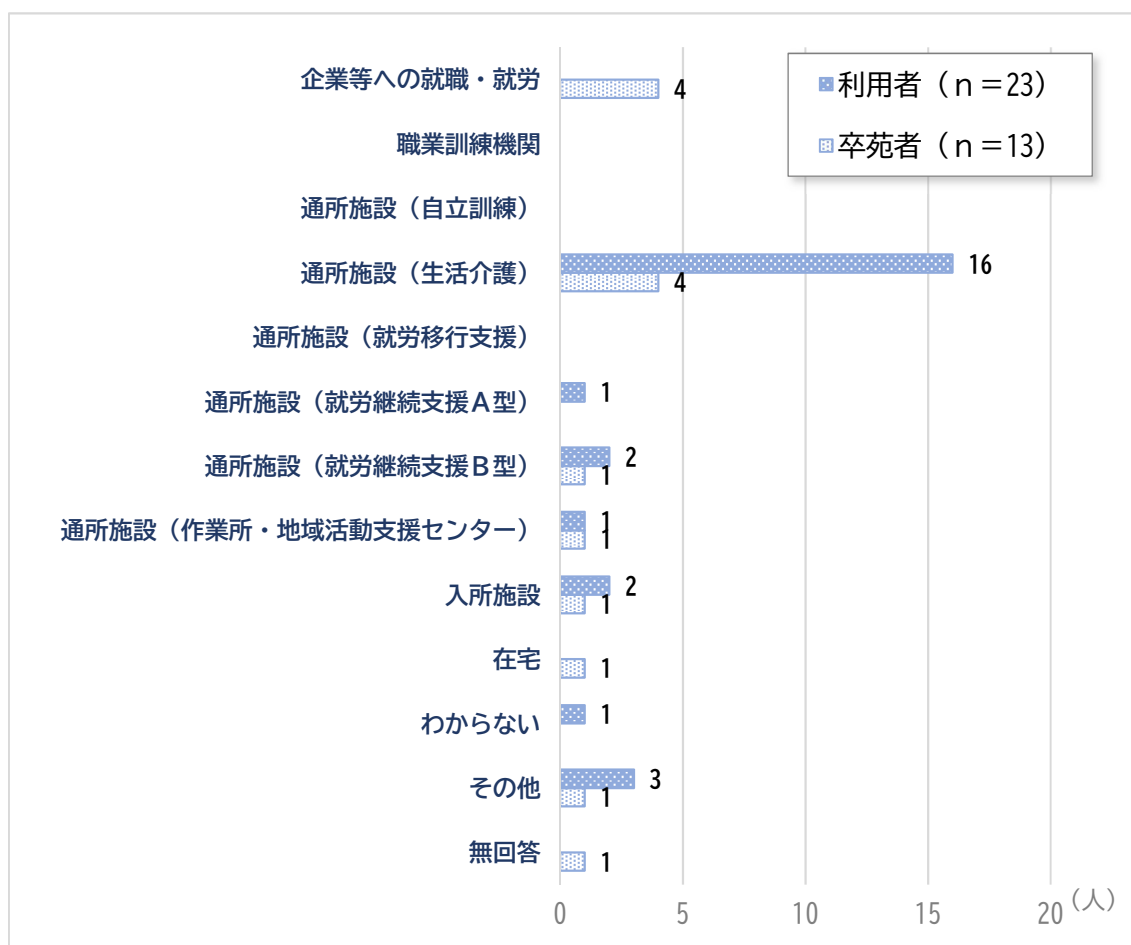
一方、『不安がない』または『不安はなかった』と回答した人の理由を見ると、『すでに行き先が決まった』といった回答のほか、『担当スタッフの面倒見が良かった』などの回答がありました。

3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問4）

問4 福祉援護センターを卒苑した後の進路先として、どのような候補を考えていますか？・考えていましたか？

No.	回答選択肢	利用者（n=23）		卒苑者（n=13）	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	企業等への就職・就労	0	0.0%	4	28.6%
2	職業訓練機関	0	0.0%	0	0.0%
3	通所施設（自立訓練）	0	0.0%	0	0.0%
4	通所施設（生活介護）	16	61.5%	4	28.6%
5	通所施設（就労移行支援）	0	0.0%	0	0.0%
6	通所施設（就労継続支援A型）	1	3.8%	0	0.0%
7	通所施設（就労継続支援B型）	2	7.7%	1	7.1%
8	通所施設（作業所・地域活動支援センター）	1	3.8%	1	7.1%
9	入所施設	2	7.7%	1	7.1%
10	在宅	0	0.0%	1	7.1%
11	わからない	1	3.8%	0	0.0%
12	その他	3	11.5%	1	7.1%
—	無回答	0	0.0%	1	7.1%
合計		26	100.0%	14	100.0%

※複数回答している回答者があるため、回答者数と回答数の合計が一致しない



3-1 アンケート調査結果【利用者・卒苑者】個別設問（問4）

【その他の内容】

利用者	今年度9月で閉苑ということで、とりあえずB型の施設を紹介していただき、それに決めました。 通所施設に通いながら入所施設を探す。卒苑後すぐあれば入所施設。 日本国の福祉に対する姿勢が他国（40年前のアメリカ、ワシントン州等）に追いつかない限り安心して卒苑しようとは思えない ★P.31を参照
卒苑者	特になし

▶ 調査結果【概要】

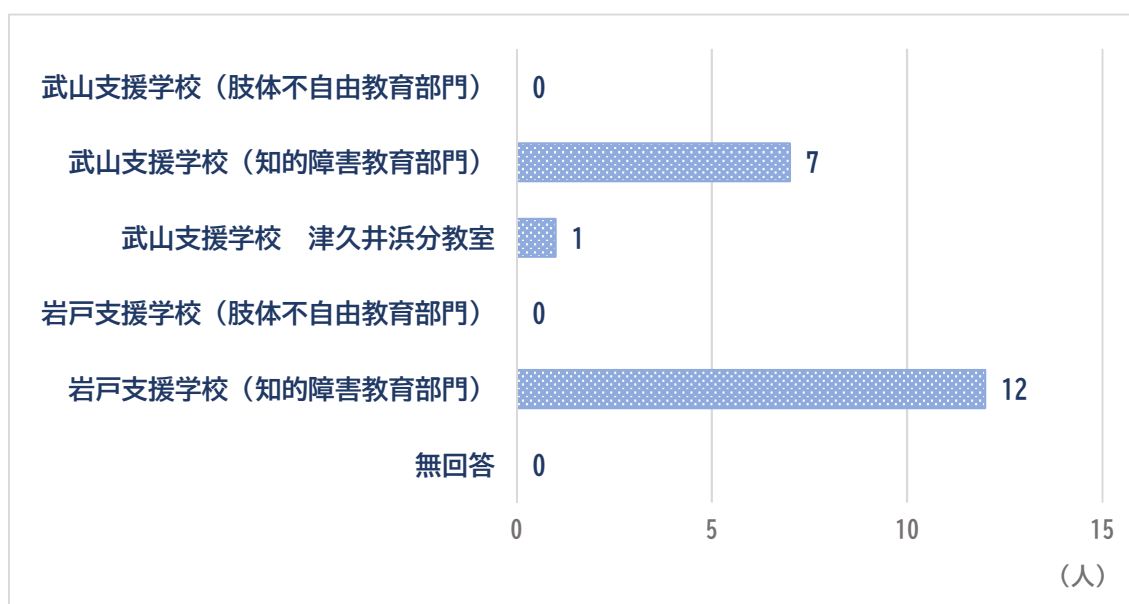
福祉援護センターの卒苑後の進路先については、『問1 利用しているサービス』の回答結果と比例して、「通所施設（生活介護）」と回答した人が最も多く、全体としては20人（50.0%）と半数を占める結果となりました。

卒苑後も引き続き同一の障害福祉サービスを候補として考えている人が多くを占める傾向が見られる回答結果でしたが、「在宅」や「入所施設」を考えている人もいるという回答結果となりました。

3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問（問1）

問1 どちらの学校に通われていますか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	武山支援学校（肢体不自由教育部門）	0	0.0%
2	武山支援学校（知的障害教育部門）	7	35.0%
3	武山支援学校 津久井浜分教室	1	5.0%
4	岩戸支援学校（肢体不自由教育部門）	0	0.0%
5	岩戸支援学校（知的障害教育部門）	12	60.0%
—	無回答	0	0.0%
合計		20	100.0%



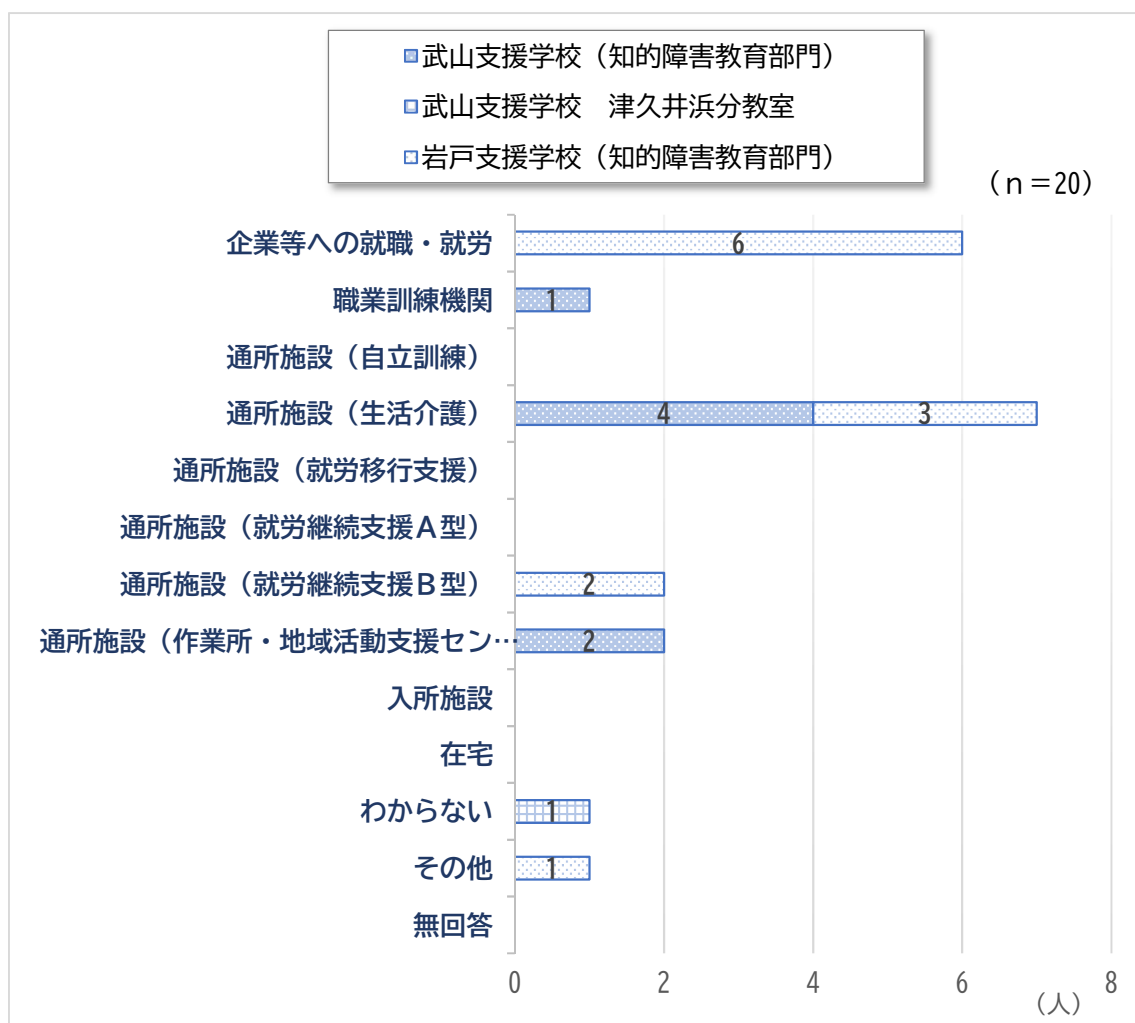
▶ 調査結果【概要】

在校する支援学校としては、「岩戸支援学校（知的障害教育部門）」が12人（60.0%）と最も多く、次いで、「武山支援学校（知的障害教育部門）」が7人（35.0%）という回答結果となり、アンケートを配付した全体の81人に対して、「支援学校」は20人（24.7%）に留まり、調査対象としては最も低い回答率となりました。

3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問（問2）

問2 支援学校卒業後の進路先として、どのような候補を考えていますか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	企業等への就職・就労	6	30.0%
2	職業訓練機関	1	5.0%
3	通所施設（自立訓練）	0	0.0%
4	通所施設（生活介護）	7	35.0%
5	通所施設（就労移行支援）	0	0.0%
6	通所施設（就労継続支援A型）	0	0.0%
7	通所施設（就労継続支援B型）	2	10.0%
8	通所施設（作業所・地域活動支援センター）	2	10.0%
9	入所施設	0	0.0%
10	在宅	0	0.0%
11	わからない	1	5.0%
12	その他	1	5.0%
—	無回答	0	0.0%
合計		20	100.0%



3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問（問2）

【その他の内容】

支援学校	（未記入）
------	-------

▶ 調査結果【概要】

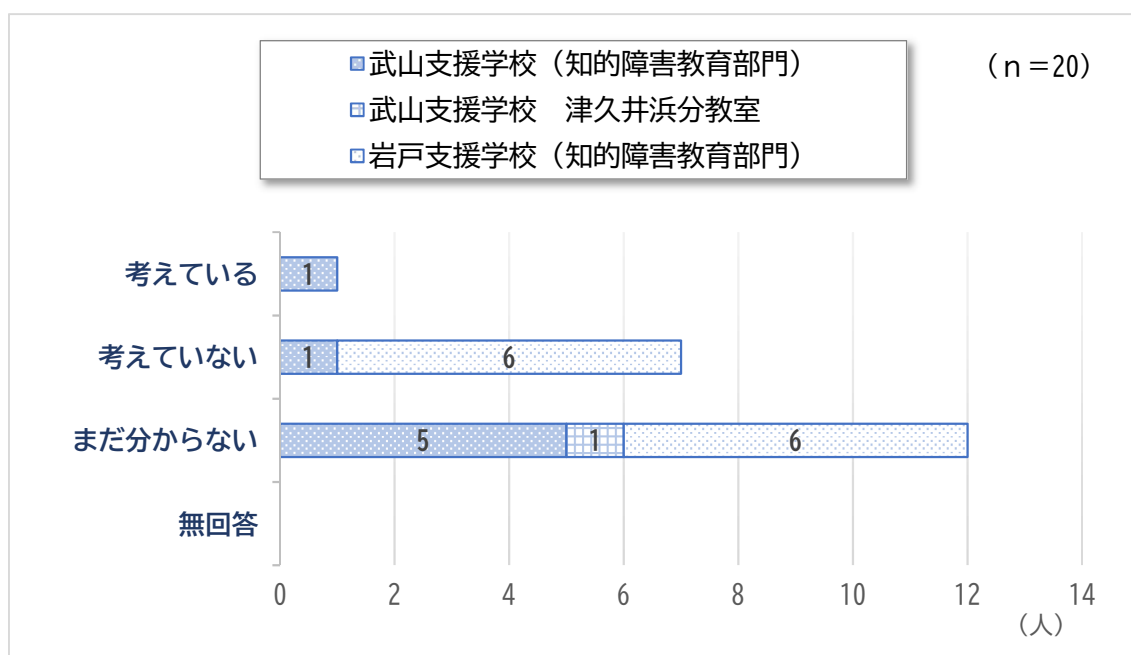
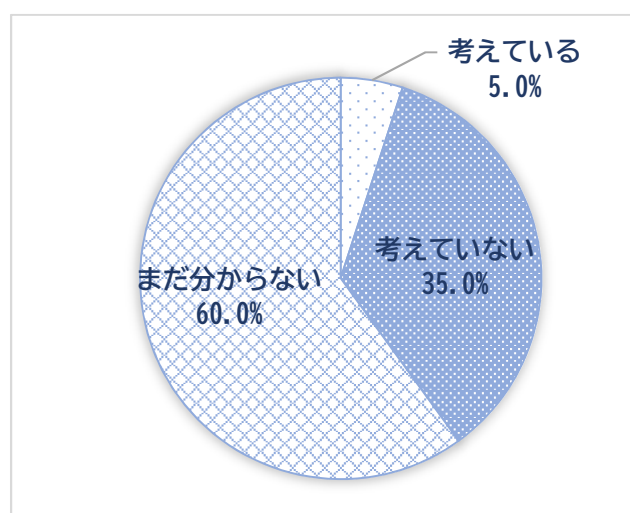
支援学校の卒業後の進路先としては、「通所施設（生活介護）」が7人（35.0%）と最も多く、次いで、「企業等への就職・就労」が6人（30.0%）という回答結果となりました。

また、それぞれ回答した人の割合を見ると、「通所施設（生活介護）」と回答した人は、『武山支援学校（知的障害教育部門）』の4人（20.0%）と『岩戸支援学校（知的障害教育部門）』の3人（15.0%）で、「企業等への就職・就労」と回答した人は『岩戸支援学校（知的障害教育部門）』が6人（100.0%）という回答結果となりました。武山支援学校については「生活介護」や「地域活動支援センター」といった通所施設を候補として考えている人が多数を占め、岩戸支援学校については「就職・就労」を候補として考えている人が多数を占めるという回答結果となりました。

3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問（問3）

問3 支援学校卒業後の進路先として、福祉援護センターを利用することを考えていますか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	考えている	1	5.0%
2	考えていない	7	35.0%
3	まだ分からない	12	60.0%
—	無回答	0	0.0%
合計		20	100.0%



3-2 アンケート調査結果【支援学校】個別設問（問3）

【回答選択肢ごとの回答理由】

■ 考えている	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)
生活介護での受入りが通らなかった場合行き場を失います かがみ田苑は最後の希望の場でもあります	
■ 考えていない	(理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 7)
B 型を考えている ----- 企業への就職を希望している。 実習も順調に行えている。 ----- 通所するには遠い ----- めざしている事業所が決まっているため	
■ まだ分からない	(理由記入数 = 6 / 選択肢回答数 = 12)
未だはっきりと決めてない ----- 進路先がだめだったら行かせたいと思いますが通うことになっても5・6年で出されると 思うと……。 ----- 現場実習が10月にあるので終了後にどこが合っているか決める予定です ----- 人がふえる場合だと考えていかもしれないが今は考えてない ----- 本人の能力がどのぐらいで有るかと言うことです ----- 本人にとって必要かも不明なため	

▶ 調査結果【概要】

支援学校の卒業後の進路先として、福祉援護センターを利用することを「考えている」と回答した人は1人（5.0%）のみで、「まだ分からない」と回答した人が12人（60.0%）と最も多く、次いで、「考えていない」と回答した人が7人（35.0%）という回答結果となりました。

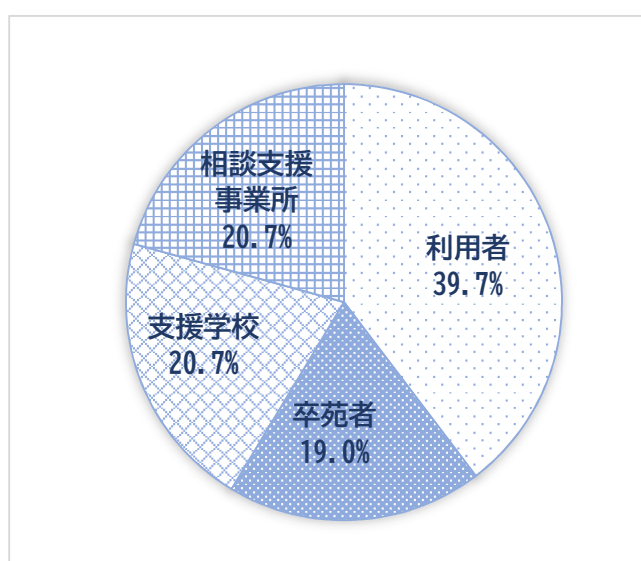
高等部の3年生を調査の対象としましたが、調査期間中（令和5年6月26日～7月31日）の時点では、未だ具体的な進路先が決まっていない状況の方が半数以上を占め、福祉援護センターを進路先の候補として具体的に考えている人は1割にも満たないという回答結果となりました。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

① 福祉援護センターにどのような資質や意義、機能、役割を期待していますか？

回答（期待する具体的な内容を自由記載）	回答数	回答率
利用者	23	39.7%
卒苑者	11	19.0%
支援学校	12	20.7%
相談支援事業所	12	20.7%
合計	58	100.0%



【調査対象者ごとの回答内容】

■ 利用者

(理由記入数=23／回答者数=24)

- ・市立として他では受け入れが困難な利用者の受け皿
- ・事業所や民間の施設で足りないサービス・受け入れ

受け入れ先のない重度障害者の長期的な支援

- ・施設・スタッフさんの人数等、とても恵まれたよい施設だと思います。
- ・できることなら、同じような規模の施設が市内にもう1つ欲しいと思ってしまいます。
- ・利用者、その関係者にとってハラスメントのない安心感を意識して頂きたいです。
- ・プール遊びなど楽しい企画を考えて下さり、大変ありがたいです。職員さんに無理のない動きを考慮したうえで、これからもお願いできれば幸いです。

子どもが楽しく通えばいいのでとくに期待している具体的なことはありません。

支援に関する技術、知識、経験があった方が安心して信頼できる

職員の質も高いように感じます。
今までのように勉強し、健康に仕事をしてください。

日中活動のマンネリ化を解消して欲しい

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

- ・高いサービスの質
- ・市立の施設としての安心感や信頼性、開かれている点
- ・障害の重度や特性に制限されず広い受け入れ

(例2)に○の記入あり

【(例2) 高いサービスの質(支援に関する技術や知識、経験、専門性)】

他の事業所にはない、施設の広さ。
必要最低限しか動かない、本人のために広く動きやすい施設を選びました。
もちろん、支援してくださる方々の様子もよさそうだったので。
トイレそうじまで教えていただき、ありがたいです。

民間施設では受け皿のない重度障害者を受け入れて頂いていて、担当者がみずから専門的な事を勉強してくれている
障害者一人一人をしっかりみつめてその人にあった対応をして頂いているので大満足ですが、この方のような積極性のある職員が沢山いられる事を期待します

民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿
あと預かっていただく時間がもう少し長ければ助かります

ない(B型閉鎖されでいくので)

子供を理解し、さまざまな今後に対することのバックアップ。
次の場所へ行った時のスムーズな移行できるような状態に。

- ・行き場のない重度障害者の受け皿として職員の皆様には深い理解と支援技術の向上を期待します。
- ・地域に開かれた事業所を目指してほしい。また関係機関との連携においてもしっかりと情報共有を行って支援にあたっていただきたい。
- ・また各種福祉サービスについて保護者への啓発活動として情報を提供できるよう勉強会など取入れてほしい。(成年後見制度など)

- ・重度障害者を無期限で受け入れて欲しい
- ・ショートステイを考えて欲しい

民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿としての機能や、親なき後を見据えた居住支援のための機能をもつ場所としての役割を期待したいです。

支援に対する高い知識や、重度障害者の受け皿、行事やイベントなども再開して欲しいです。

(例1)の内容

(例2)ももう少し取り入れてもらえればありがたい。

短期入所もできるようになればなお良い。

【(例1) 市立の施設としての信頼性や安心感、公正性、公平性、(例2) 高いサービスの質(支援に関する技術や知識、経験、専門性)】

支援に関する知識、専門性

- ・民間施設では受け入れが困難な障害者の受け皿
- ・障害者本人の個性に基づいたサービス事業の実施

充分な支援員の方の人数

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

(例1～5全てを含む)
そして利用者が慣れた環境と人々と共にかかわれる保護者が一時的に入院する等の場合にかがみ田苑の中で過ごすことが可能になれば全国的にも横須賀市が福祉のモデルケースとして一石を投げ皆が安心出来ると思う
(非常時のみ)
★P. 24 を参照

■ 卒苑者 (理由記入数=11／回答者数=13)

民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿（セーフティネット） 特に最重度
まだちょっとわかりません。

就労に結び付く技術力、知識、経験体験のサービスの質がとても良く、現状、助かっています。

障害者に対する相談対応、支援
障害者の将来進路への援助
家庭内で問題行動を起こす障害者や家族への支援、補助、助言

福祉援護センターに限らず、毎年増加し続ける知的障害者に対して十分な受皿がないのが第1の問題です。
福祉ケアの質の向上や専門性の充実よりも、預け先が無いことへの解消に対応願います。
(1人の保護者として不安でしかたない)

市立の施設としての信頼性や安心感

- ・行事やイベントなどの自主事業の充実
- ・市立の施設としての信頼性や安心感

例4と同じです。
【(例4) 民間の施設では充足してない障害福祉サービス事業の実施】

- ・重度障害者が毎日、嫌がらず、通える体制であって欲しい
- ・日中1時を利用しているが、土、日も預けられたら助かります。
- ・重度障害者の受け皿はとても大事だと思います。定員数もあるのは分かりますが、学校卒業後の方の事を、もう一度考えて欲しいです。

市でやっている施設なので、信頼性・安心感・公正性・公平性を望んで入苑しました。
昔からやっている施設なので、たくさんの卒業生も出しているし、横須賀市内に就職するには良いと思い入苑しました。

他では受け入れられない重度の利用者を利用させてほしいです。

■ 支援学校 (理由記入数=12／回答者数=20)

市立の施設としての信頼性、安心感
高いサービスの質

民間の設備ではなかなか意見が通らず家族、知人に障害をもつ人がいないとピンとこない施設がまだまだ多いので障害をもつ人をまじえてサービス事業に必要な事を県や市がもっとしんみになってほしい

高いサービスとはいいいませんが5・6年で出さないでほしいです。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

例1と3に同意

【(例1) 市立の施設としての信頼性や安心感、公正性、公平性、(例3) 民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿(セーフティネット)】

受け入れが困難な重度障害者の受け皿はもちろん支援者の専門性

民間の施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿

サービスなどの向上して、イベントをもっと分かりやすくしてほしいです。

高いサービスの質

本人パソコン、絵を書くことが得意で

(例2)に○の記入あり

【(例2) 高いサービスの質(支援に関する技術や知識、経験、専門性)】

誰でも使用可能にして欲しい

市の施設として、幅広く障害がある人の援助をしてほしい。受け入れ人数も多いとよいと思う。

職員の方がみな支援に関するしっかりとした知識をもち、定期的に知識や情報のアップデートを行うこと。

■ 相談支援事業所

(理由記入数=12/回答者数=12)

- ・指定管理料が支払われ、多くの資金を得ているにも関わらず、民間施設をまとめるような動きもないし、研修の実施等、市内の福祉施設従事者の支援力向上にも寄与していないと考えるので、民間施設を積極的にリードしていただきたい。
- ・以前実施されたかがみ田苑従事者のアンケートを拝見したが、従事者の意識の低さに愕然とした。援護センターの機能・役割以前の話だと感じているので、従事者の意識改革をすべきだと考えている。
- ・確か「相談支援事業の充実」が指定管理料の中にあっただと思うが、全く機能していない。横須賀市は委託事業所が5か所あり、かがみ田苑の相談支援事業に指定管理料が上乗せされていること自体、理解できない。また、かがみ田苑相談支援事業所で計画相談を利用している利用者の相談支援事業所に対する不満など、数多く受けてきているが、本来であれば相談支援事業所が他の相談支援事業所の不満などを受け止めるべきではないかと考える。

民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿、民間の施設や事業所では充足してない障害福祉サービス事業の実施。

- ・オープンな支援の提供
- ・重度の方の受け入れ

行動障害を伴う知的障害の方の受入れをしてほしいです。

行動障害の専門的なアセスメントを行い、安定した生活を送るための見たてを行い、相談事業と絡めて個別支援を通じ、ご本人、ご家族、地域の関係機関とのネットワークを築いてほしいです。

相模原市の事業団のような事業展開をしてほしいです。

一方で、福祉援護センターのあり方を考える前提として、横須賀市が今後、「脱施設」「地域生活支援拠点等事業」等を含めた「障害のある方の地域での暮らし」がどうあるべきなのかのビジョンが必要だと思います。

それがあれば、自ずと福祉援護センターに期待することは見えてくるのではないのでしょうか。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

- ・（例1）（例3）に挙げられているような民間との差別化を図る役割
- ・分所があり、複数の場で受皿が増えるといい。
- 【（例1）市立の施設としての信頼性や安心感、公正性、公平性、（例3）民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿（セーフティネット）】

専門性

公平性

民間施設で担えない事業の補完

- ・少なくとも仕様書に記載されている事業・目的が期間内はきちんと履行される事を望みます。

- ・強度行動障害への対応
- ・夜間、早朝、休日の対応
- ・家庭生活への助言と現場（家庭）での対応
- ・重度の障害者を受け入れる施設が少ない中、受け入れが困難な人を最終的に受け入れる施設としての機能
- ・支援の基礎部分、コミュニケーション方法や支援方法など民間施設に移行する際、伝授してほしい
- ・地域生活支援拠点等における他機関との協働、実践において中核的な役割

- ・相談支援専門員として障害当事者の方や家族と関わる中で、障害者総合支援法のもと、様々な福祉サービスが整えられ、数も増えてきてはいるが、地域の中で孤立がちでリスクの高い利用者（家族含む）が散見されており、そういった利用者の方の受け皿の少なさを実感している。利用できる方は選択的にサービスが利用できるが、そうでない方は限定的なサービス利用にとどまっているのが現状。緊急時を含め、特性上サービス利用が限定的にならざるを得ない方々の受け皿としての役割を求めます。
- ・地域の中でワンストップで対応できる「よろず支援拠点」の役割。

民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿として、知識、経験、専門性を活かした役割をお願いしたい。

- ・基本的に2種事業としての日中活動は、現在市の指定管理として適当か、疑問を感じます。
- ・困難ケースを一ヶ所に集めた支援は「地域力」が育ちません。
- ・専門性の高い支援は、「地域力向上」の為に働かせていただきたい。（人材育成など）
- ・現在の障害福祉の大きな課題は、「どこで、だれと暮らすか」です。緊急時対応の役割が必要です。

民間の事業所では受け入れが難しい強度行動障害者の受け入れと共に、市内の事業所間の対応や支援スキル等の情報交換、交流等の中核的な施設の役割を任してほしい。

▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターに期待される資質や意義、機能、役割については、回答数で見ると、最も多く回答した調査対象者は「利用者」の23人（39.7%）で、「支援学校」と「相談支援事業所」は同数の12人（20.7%）、「卒苑者」は最も低く11人（19.0%）という回答結果でしたが、回答率で見ると、「相談支援事業所」が12人中12人の回答があり100.0%、次いで、「利用者」が24人中23人の回答があり95.8%、「卒苑

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ①資質・意義・機能・役割

【利用者・卒苑者：問5】【支援学校：問4】【相談支援事業所：問1】

者」が13人中11人の回答があり84.6%、最も低かったのは「支援学校」の20人中12人の回答があり60.0%という回答結果でした。

調査対象者ごとに具体的な回答の内容を見ると、「利用者」「卒苑者」「支援学校」については、いずれも『重度障害者の受け皿』という回答が多く見られる中、『高いサービスの質』や『支援に関する知識や専門性』のほか、『市立の施設としての安心感や信頼性』といった様々な回答がありました。

「相談支援事業所」については、「利用者」等と同様に『民間施設では受入れ困難な重度障害者の受け皿』といった回答が多くある中で、『専門性の高い支援』や『民間施設を積極的にリード』、『地域生活支援拠点としての中核的な役割』といった市立の指定管理施設として期待される役割という観点を踏まえた回答がありました。また、一部の相談支援事業所からは『従事者の意識の低さに愕然とした』や『相談支援事業の充実』が全く機能していない』、『従事者の意識改革をすべきだ』といった現在の運営状況を指摘する厳しい意見もありました。

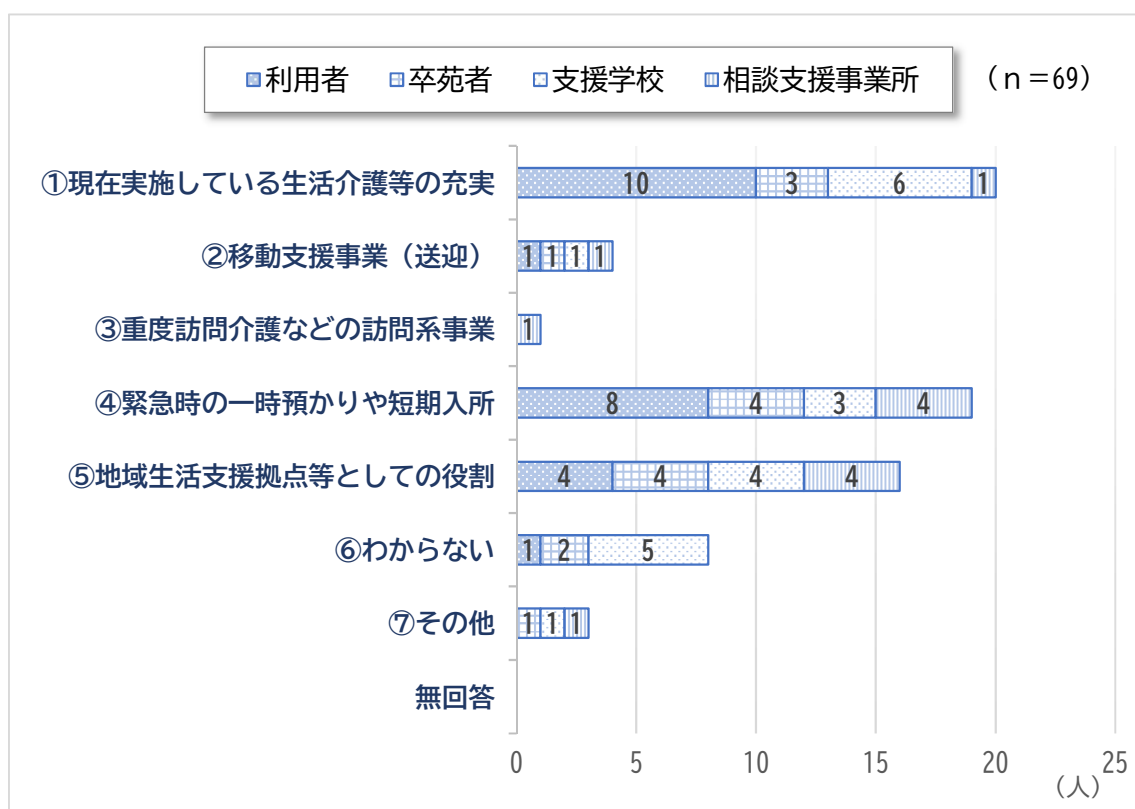
3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

② 今後、福祉援護センターでは、どのような事業（サービス）を積極的に実施することが望ましいと思いますか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	現在実施している生活介護、日中一時支援、相談支援事業のより一層の充実	20	28.2%
2	これまで実施していない移動支援事業（送迎）	4	5.6%
3	これまで実施していない重度訪問介護や行動援護などの訪問系事業	1	1.4%
4	これまで実施していない緊急時の一時預かりや短期入所（ショートステイ）	19	26.8%
5	地域生活支援拠点等（障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居住支援のための機能をもつ場所や体制）としての役割	16	22.5%
6	わからない	8	11.3%
7	その他	3	4.2%
—	無回答	0	0.0%
合計		71	100.0%

※複数回答している回答者があるため、回答者数と回答数の合計が一致しない



【その他の内容】

利用者	就労移行支援
卒苑者	（未記入）
支援学校	（未記入）

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】

① 現在実施している生活介護、日中一時支援、相談支援事業のより一層の充実	
■ 利用者	(理由記入数 = 7 / 選択肢回答数 = 10)
長期的に受け入れて頂けると有難いです。 とくにありません。 ・まずは①でしょう ・余裕があるのなら多くのサービスを望みます 訪問や行動援護も希望したいが、まずは日常の一層の充実が大切 ・日中活動を中心に生活の中で必要と思われる自立訓練を通して重度障害者が安定して日常生活を送れるように支援していただきたい。 ・開かれた事業所として積極的に地域との交流や他事業所や関係機関との連携をしっかりとって時代から取り残されないよう常に新しい情報と風通しの良い環境を作ってほしい。 いろいろやっていただきたいことはありますが、現実的には厳しい面が多々あると思いますので、まずは今、実施していることをより一層充実して欲しいです。 短期入所や移動支援、やってもらいたいサービスは色々ありますが、全ては無理だと思うので、現在実施しているサービスの充実を希望します。(通所期間の延長や土曜日に月2回通えるなど。)	
■ 卒苑者	(理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 3)
困った時にたよりになるべき所であって欲しい 利用していて一番重要だと感じた 生活介護、日中一時支援、相談支援事業の場が横須賀に少なすぎるので、引き続け、行って欲しい。	
■ 支援学校	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 6)
充実していただけるとうれしいです。	
■ 相談支援事業所	(理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1)
(理由記入なし)	
② これまで実施していない移動支援事業（送迎）	
■ 利用者	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)
送迎の確保が困難である。 場所が不便なので送迎の事業が望まれる。	
■ 卒苑者	(理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1)
(理由記入なし)	
■ 支援学校	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)
共働きの為、毎日親が送迎するのは大変な為	
■ 相談支援事業所	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)
市内の資源として圧倒的に不足しているため	

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

③ これまで実施していない重度訪問介護や行動援護などの訪問系事業

■ 利用者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 0)

—

■ 卒苑者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 0)

—

■ 支援学校 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 0)

—

■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)

民間施設での受け入れが困難な状況にあると思われるため。

④ これまで実施していない緊急時の一時預かりや短期入所（ショートステイ）

■ 利用者 (理由記入数 = 8 / 選択肢回答数 = 8)

知っている方がいる、慣れた施設で、ショートステイもやっていただけると、本人も安心すると思う。

親が高年令な為、いつ倒れるかわからないので、⑤も欲しい
先を見て民間施設も考えていますが、施設がみつからないと県外それも東北、北海道と言う方もいました

重度障害があると地域のショートステイも受け入れてもらえず家族の用事や体調不良の時大変困っている。
慣れている場所やスタッフの方なら本人も安心だと思う。

現在のショートステイは、毎回同じ人が使用優先されることが多く、緊急時（冠婚葬祭）などに使用することができない。
何回か必要性を感じたので。

知らない人からは食べてくれないので、心配で預ける事が出来ない。○月私（母）が○の手術をする事が決まったが、○○の実家に預ける事にした。
今回は計画的に手術をする為、準備が出来たが今は配偶者がいないため、急な事が起きた時が心配。

ショートステイに空きがなく、利用できていない為

・緊急時に一時的に預かってもらえる人や施設が身近にないため。

問5を参照して下さい。

必ず！！

★P.18【調査対象者ごとの回答内容】■利用者を参照

■ 卒苑者 (理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 4)

どうしても仕事や病気で子供達を急遽預けなければならない時、市内に預け先が無いのは致命的です。一刻も早く、一時預かりや短期入所（ショートステイ）が受入れられる施設を作って頂きたい。

緊急で預かってもらえる所は今は横須賀市には無いと理解しています。

■ 支援学校 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 3)

(理由記入なし)

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

	■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 4) 入所施設に併設された短期入所事業所は、入居者への感染症拡大等を恐れ利用を制限する事があるが、通所施設であればその様な心配をすることなく、受け入れが可能であると考えため。また、入所施設に併設された短期入所事業所は、利用予約がされており、緊急時の短期入所対応が難しい現状がある。緊急短期入所ベッド確保という意味合いにおいて、短期入所を実施してもらいたい。 ----- 現在不足の事業と思うので ----- 第1に、利用者もご家族も高齢化が進んでいる現在、介護者の緊急事態に備えて、一時預かりやショートステイの受け入れ場所として活用されること。また、親亡き後の先を見据えた居場所作りとしての役割を担ってほしいです
⑤ 地域生活支援拠点等（障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居住支援のための機能をもつ場所や体制）としての役割	
	■ 利用者 (理由記入数 = 4 / 選択肢の回答数 = 4) いずれ親は亡くなり、障害を持つ者だけが残ります。かがみ田苑さんくらいの収容人数とスタッフさんの数はもう少し増えた方が負担が少ないと思いますが、施設内の環境は恵まれていて理想的です。このような施設で生涯を過ごすことができれば幸せだと思います。 ----- 兄・姉あまり迷惑かけられないから ----- 1人っ子の為、また重度障害者ある為、常に介助が必要で自立は不可能です。親亡き後を見据えた居住支援のための機能をもつ場所は最重視の課題だと思っています。 ----- 親亡き後にそなえて、ショートステイを利用したい
	■ 卒苑者 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 4) 高齢化や「親亡き後」の事業実施を望んでいます。 ----- 地域生活支援 ----- 親亡き後が一番心配です。 市で居住できる施設を作ってほしい。
	■ 支援学校 (理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 4) 親が元気なうちは障害者をみてられるが、亡くなった時に家族・兄・弟・姉・妹などまたは他にも障害をもつ者がいると大変。居住支援も考えた方が良くと思う。そのための年間数日のショートステイなどやってほしい。 ----- 親亡き後の我が子の行く末が本当に心配 グループホームなどの居住支援がもっと充実されることを強く願います。 ----- グループホームもまだ少なく、1人で生活していく為の環境が整っていないと感じるため。 ----- 親の不安を少しでも取り除けたら、という願いです。
	■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 4) ⑤は、①～④も含めた内容になるかと思います。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

現在、横須賀障害とくらしの支援協議、障害福祉課、地域福祉課（障害者基幹相談支援センター）と共に地域生活支援拠点等の在り方を検討しているところです。まだ具体化へのステージには届いていない所ですが、指定管理事業者にも、その在り方を検討できる場から積極的に参画してほしいです。

以前、かがみ田苑利用者を緊急時、施設内に宿泊させる事業を行っていた。その事業を復活させることで地域生活支援拠点等の役割が担える。重度障害者の支援にたくさん携わってこられたかがみ田苑がこれまでの知見を生かして事業を立ち上げてもらえるなら家族もサービス提供事業所も非常に心強い。

特に強度行動障害者等の緊急時の受け入れを含めた、地域生活支援拠点の整備をのぞみます。

⑥ わからない

■ 利用者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1)

(理由記入なし)

■ 卒苑者 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 2)

まだちょっとわかりません。

■ 支援学校 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 5)

実際、サービスを受けたり、援護センターに行ったこともありません。

すべて必要なものだと思います。特に「これだけは」というものはないので・・・

今は日中は、支援学校での支援を受けているので今のところ分からない。

■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 0)

—

⑦ その他

■ 利用者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 0)

—

■ 卒苑者 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)

自分達では企業との繋がりが無い為

■ 支援学校 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)

人材確保が非常に難しくなる事が予想されるため

■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 1)

過去に比べて福祉サービスの数は増えてきていると思うが、肌感として昔も今も利用できない方は利用出来ないまま取り残されている。根拠はありませんが。

▶ 調査結果【概要】

今後、福祉援護センターで実施する事業については、「①現在実施している生活介護、日中一時支援、相談支援事業のより一層の充実」と回答した人が20人(28.2%)と最も多く、次いで、「④これまで実施していない緊急時の一時預かりや短期入所(シ

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ②望ましい事業

【利用者・卒苑者：問6】【支援学校：問5】【相談支援事業所：問2】

ョートステイ)」と回答した人が19人（26.8%）という回答結果でした。

回答ごとの理由を見ると、「①現在実施している生活介護、日中一時支援、相談支援事業のより一層の充実」と回答した人については、『色々とやってもらいたいサービスはあるが、まずは現在実施している事業のより一層の充実を』といった回答のほか、『生活介護、日中一時支援、相談支援事業が横須賀市に少なすぎる』といった回答もありました。

また、「②これまで実施していない移動支援事業（送迎）」と回答した4人（5.6%）については、『場所が不便なので送迎事業が望まれる』や『毎日親が送迎するのは大変』、『市内に圧倒的に不足しているため』といった回答がありました。

また、「④これまで実施していない緊急時の一時預かりや短期入所（ショートステイ）」と回答した人については、『緊急時に受入れてもらえる施設がない』といった回答が多くを占める中、相談支援事業所からは『短期入所事業所は受入れが難しい現状があるため、通所施設で緊急時の短期入所を実施してもらいたい』といった回答もありました。

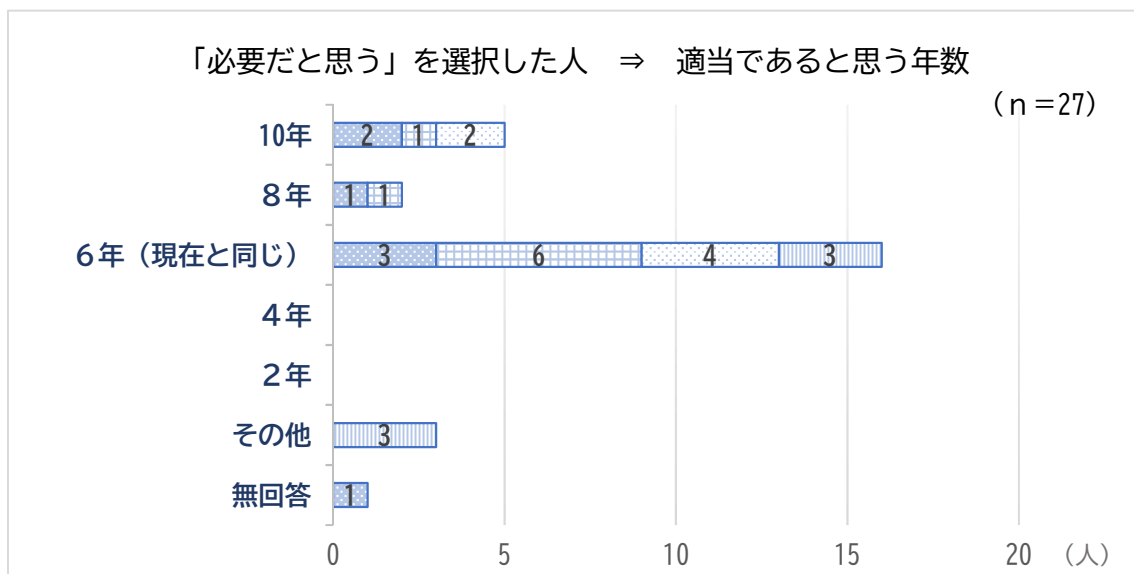
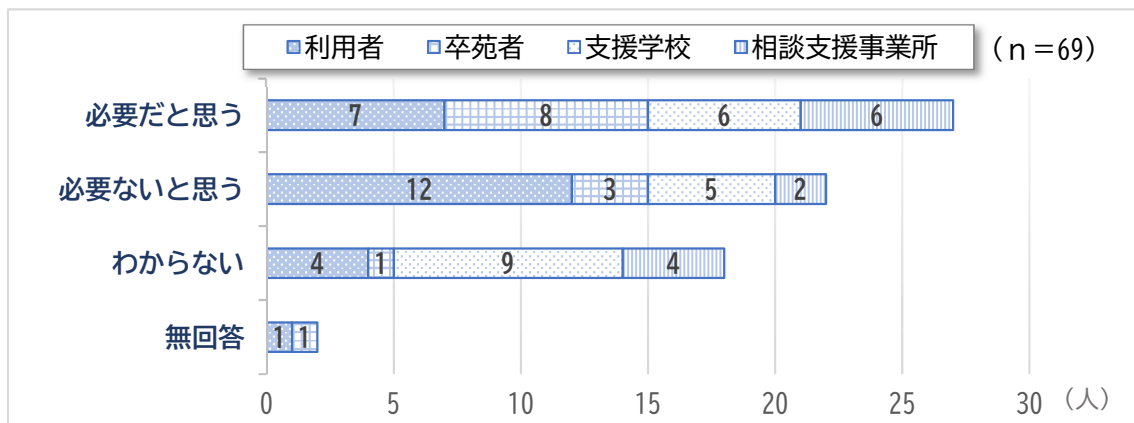
「⑤地域生活支援拠点等（障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居住支援のための機能をもつ場所や体制）としての役割」と回答した16人（22.5%）については、「利用者」「卒苑者」「支援学校」とともに、『「親亡き後」が一番心配』といった回答が多く見られましたが、「相談支援事業所」については、ほとんどが『地域生活支援拠点等としての役割』を求めるといった趣旨の回答理由でした。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

- ③ 福祉援護センターでは、市立の施設として多くの人に利用してもらうという公平性の観点と、訓練のための通過施設としての位置付けから、利用期限を6年としていますが、利用期限について、どのようにお考えですか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	必要だと思う	27	39.1%
	① 10年	5	18.5%
	② 8年	2	7.4%
	③ 6年（現在と同じ）	16	59.3%
	④ 4年	0	0.0%
	⑤ 2年	0	0.0%
	⑥ その他	3	11.1%
	— 無回答	1	3.7%
2	必要ないと思う	22	31.9%
3	わからない	18	26.1%
—	無回答	2	2.9%
合計		69	100.0%

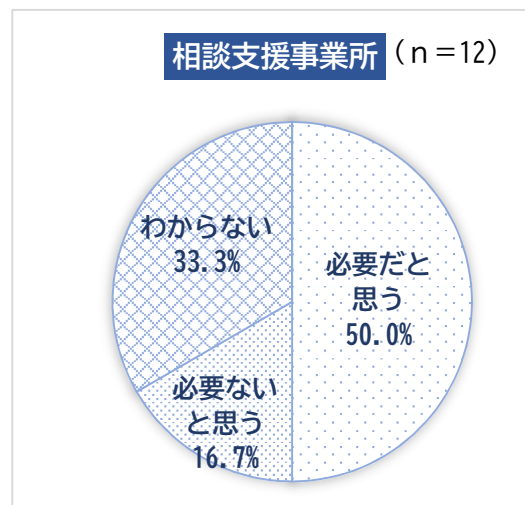
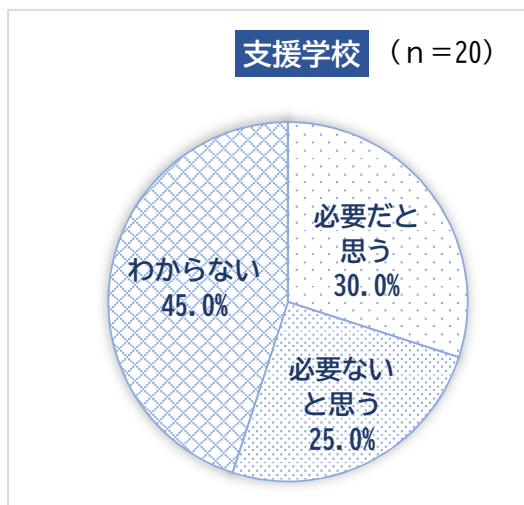
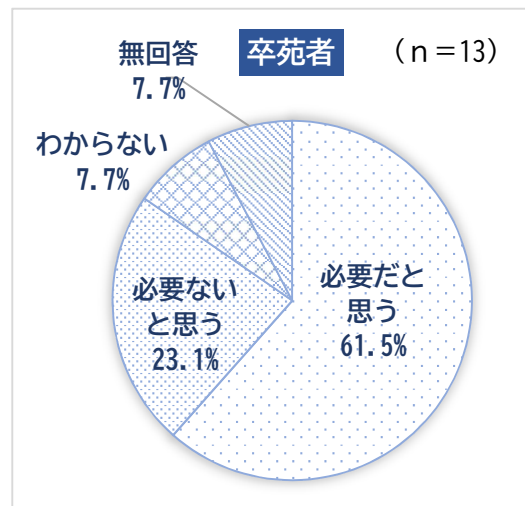
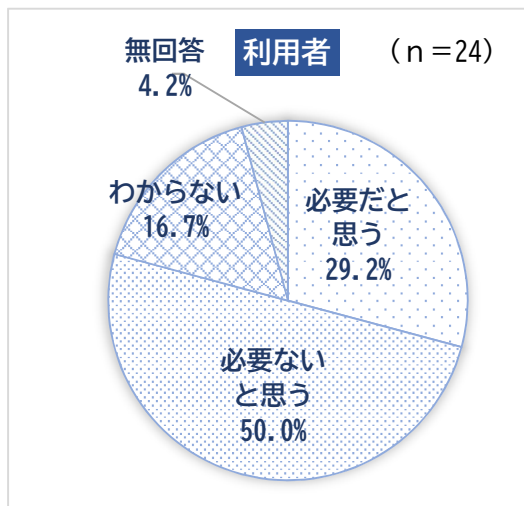


3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

【その他の内容】

相談支援事業所	個々人に合った必要な期間
	3年



【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】

1 必要だと思ふ	
■ 利用者	(理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 7)
① 10年	(理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 2)
1日1日があっという間なので少しでも長くそして福祉援護の為にもう少し施設を市として作って欲しい 次の施設へ移行するまでに自立できる時間があるべくほしい。 親の気持ち的な余裕があるといい。	

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

	②8年	(理由記入数＝1/選択肢回答数＝1)
		他の施設がどこもいっぱいということと、公平性も考えて8年にしました。
	③6年（現在と同じ）	(理由記入数＝0/選択肢回答数＝3)
		(理由記入なし)
	■ 卒苑者	
	①10年	(理由記入数＝6/選択肢回答数＝8)
		(理由記入なし)
	②8年	(理由記入数＝1/選択肢回答数＝1)
		とても良かったのでもう少し長いと嬉しい
	③6年（現在と同じ）	(理由記入数＝5/選択肢回答数＝6)
		よくわからないですけど現在と同じでいいと思います。
		やはり多くの人に利用できる様に期限は必要だと思います。
		多くの人が公平に利用できるために年数制限は必要だと思う
		知的障害の子供の受け入れる公的な施設として、6年以上在籍者がいるのは、今後入苑希望者の受入れに支障があると考えます。 よって次の施設へ在籍者が円滑に移れるよう同施設の増やすことが不可欠と考えます。
		利用期限がないと、ずっとそこにいる人が増えて、新しい人が入苑できないから。
	■ 支援学校	
	①10年	(理由記入数＝2/選択肢回答数＝6)
		(理由記入数＝1/選択肢回答数＝2)
		1つの企業で合わなくとも、その他を選択出来る事を長く見てあげてほしい
	③6年（現在と同じ）	(理由記入数＝1/選択肢回答数＝4)
		今の6年でいいと思います。
	■ 相談支援事業所	
	③6年（現在と同じ）	(理由記入数＝5/選択肢回答数＝6)
		(理由記入数＝2/選択肢回答数＝3)
		6年が妥当かどうかはわからないが、公平性の観点から利用期限を設けることは必要と考える。
		市立の施設として、訓練のための施設であり、利用期限は必要と思う
	⑥その他	(理由記入数＝3/選択肢回答数＝3)
		期限というより、通過型で良いと思います。 主に行動障害のあり方を受入れてほしいと思いますが、専門的なアセスメントと見立てをし、支援することで安定が図れれば、他事業所へ引継ぎをしてほしいです。 再利用を可能にしてほしいです。
		公平性といった観点も重要と考えますが、地域での生活が立ち行かなくなった方を地域生活が可能な状態まで支えるといった観点も含め柔軟に設定できればと思います。 公平性だけでなく偏りなくといった観点も重要かと。
		基本的には、利用期限はなく、通常の日中活動事業として取り扱うべきですか、「指

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

	定管理」の目的を明確にする為には、有期限が必要。
2	必要ないと思う
■ 利用者	(理由記入数=12/選択肢回答数=12)
	期限を決めても次が決まらなと出る事が難しい反面、決まれば短期間で出るケースも有る為 障害が重く、他に受け入れてもらえる施設がなかなかみつからない 他の所では期限がないのかかみ田苑だけあるのはよくわからない。最初に決める時もこの6年という期限があるのでものすごくなやみました。 慣れた環境で自分自身のルーティンがあり、決められた行動、リズム通り整えることができて達成感があるようです 通過施設として次の受け入れ先が有るなら利用期限が有ってもよいが、次が無いならやを得ず延長とならざるを得ない。 期限というより1人1人に合う今後をじっくり専門性を生かして本人、保護者と共にとり組んでほしい 期限は決めず、その子の様子を見て、地域施設にチャレンジ出来る状態の方はどんどん挑戦して、6年でも落ちつかない方は落ちつくまで。(地域施設が見つかるまでは利用させてもらう) ・ 障害は皆同じ状態ではないので、個別の対応が必要であると思う。 ・ 成長に合わせて安定して地域の事業所へ通所できるのであれば、そのタイミングでうまく移行できれば良いと思う。 重度障害者は、次に安心して移行する施設がない 重度障害者は受け皿がなく、よほどのツテがなければ新卒でなく途中で受け入れてくれる場所などないように感じています。重度障害者に限っては、利用期限があるということにはとても不安を感じています。 ・ 移行先が見つからない(受け入れてもらえる施設がない)場合に利用期限が有ると困るため。 問3、問4を参照 必ず!! ★P.7【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】■利用者を参照 ★P.10【その他の内容】■利用者を参照
■ 卒苑者	(理由記入数=3/選択肢回答数=3)
	重要度の高い支援を必要としている利用者の円滑と利用しやすい(例えば軽度障害者)と重度障害者との公平性が必要な為、軽度でも重度でも同じ利用日数を守るため しかし、重度の方、どうしても他の施設へ移行できない方は必要ないけど、援護センターにしか頼るしかない移行できる方もいると思う。 他でも通える人はかみ田には通わないです。
■ 支援学校	(理由記入数=5/選択肢回答数=5)
	利用期限を設けると、行き場のない障害者が出てきてしまうかもしれないから

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

	継続することに意ざがあるし、6年で切られるとほかにいけない人がふえる うちの子が通う場合ですがはじめてのところが苦手でやっとなれてきたところで出されるとまたいちからはじめないといけないので。 期限後に新たな所（自分に合った）をさがすのは大変なので 期限が切れた後どうすればよいのか不安なので ■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 2) 行く先がない、選べない、長期にわたる支えの必要な方が多くいる。 以前と異なり現在は民間施設が増えてきたので、かがみ田苑を多くの人に利用してもらうという公平性は考慮する必要はないと思う。 重度の人を受け入れる施設を増やすことが必要。 利用希望者が増えたら、増設、もしくは他事業所への支援ノウハウの提供。
3 わからない	
	■ 利用者 (理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 4) 次の通所の空きが決まるまで、居させて頂けた方がありがたいです。 6年といいながらそれをこえて利用している方がいるのはなぜですか？ できれば利用期限なしで通いたいですが、そうすると高校卒業後になかなか進路が決まらない問題が出てくる（どこの施設も定員オーバーな所が多い為）ので、公平性を考えて利用期限は必要なのかと思います。ただ、6年は短く思うので10年にしてほしいです。 公平性の観点から期限を設定したほうがいいと思いますが、自分の子の事を考えると他の所へ行かせるのが不安。
	■ 卒苑者 (理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1) (理由記入なし)
	■ 支援学校 (理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 9) 利用期限を設けるのは必要だと思うが実際は期限内に出る事が厳しいと聞いているなるべく長期間に設定してほしい 利用制限をして、本人達のレベルアップにつながっているようなのか？ははっきりと目に見えないとよいか悪いかはわからない。 必要な人に、必要なだけ利用できればいいとは思いますが。
	■ 相談支援事業所 (理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 4) 公平性の観点から期間を定めることは理解できるが、現在の障害福祉サービスは、事業者と利用者の直接契約が前提であり、提供する期間を定めることが適当なのか分からない。（他の通所系サービスは、利用期間を定めている所はないと思う。） 通過後の行先の確保とつなぎ方 環境の変化に弱い当事者の受入と通過についての適切な手順ができるのであれば。 公平性の観点から有期限とすることは理解できるが長期的な支援ができない点はいかがと思う

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ③利用期限

【利用者・卒苑者：問7】【支援学校：問6】【相談支援事業所：問3】

現状では本人特性、マッチング、住まいの地域など、要因が様々ありますが、結果として行き場の無い方の通所先として、支援学校等からつながってきている様に思います。通過型施設としては、行き先の社会資源の開拓・開発・改善といった後方支援の機能も必要だと思います。利用期限はまず行き先課題からの検討だと思います。

▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターの利用期限については、全体では「必要だと思う」と回答した人が27人（39.1%）と最も多く、次いで、「必要ないと思う」が22人（31.9%）、「わからない」が18人（26.1%）という回答結果でした。

調査対象者ごとの回答率を見ると、「必要だと思う」と回答した人は『卒苑者』が61.5%（8人）と最も多く、次いで『相談支援事業所』が50.0%（6人）、次いで、『支援学校』が30.0%（6人）で、『利用者』が29.2%（7人）と最も低い回答結果でしたが、回答者数で見た場合には、6人から8人で大差ない回答結果でした。

また、「必要だと思う」と回答した人の、「適当であると思う年数」については、『③ 6年（現在と同じ）』が16人（59.3%）と最も多く、次いで、「① 10年」が5人（18.5%）という回答結果で、それぞれの回答理由を見ると、『6年が妥当かわからないが公平性の観点から利用期限は必要』といった回答のほか、『次の施設へ移行するまで少しでも長く利用したい』といった回答がありました。

一方、「必要ないと思う」と回答した人の回答理由を見ると、『重度障害者は次の移行先の施設がない』といった回答が多くある中で、『民間施設が増えてきたので、公平性は考慮する必要がないと思う』といった回答もありました。

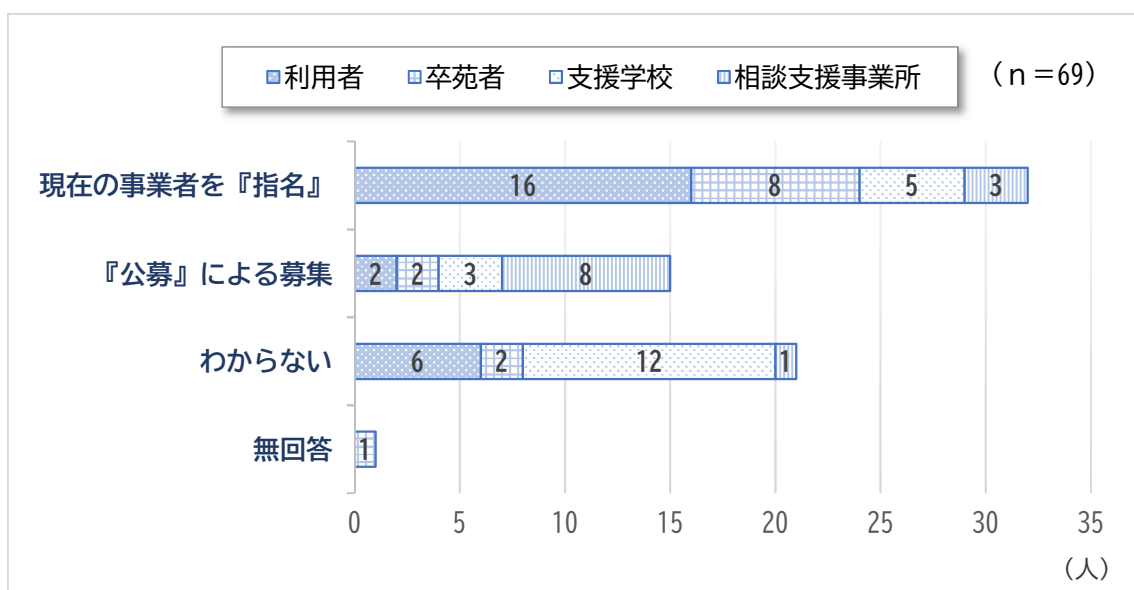
また、「わからない」と回答した人の回答理由については、『6年以上利用している人がいるのはなぜか』といった疑問を投げかける回答や『期限内に移行することは難しいと聞いているので長期間に設定してほしい』、『必要な人に、必要なだけ利用できればよい』といった回答のほか、『障害福祉サービスは事業者と利用者の直接契約が前提であり、期間を定めることが適当なのか分からない』といった様々な回答がありました。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ④選考方法

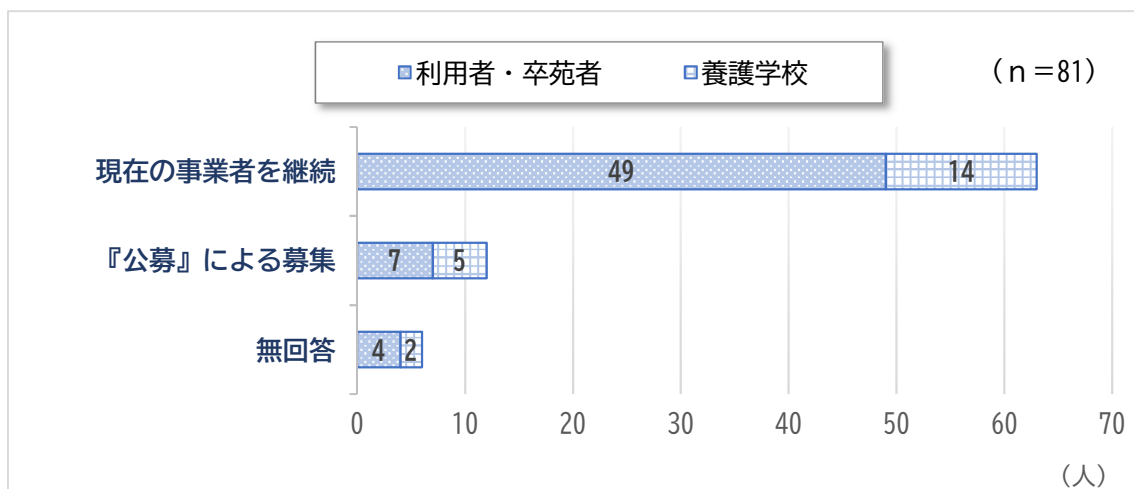
【利用者・卒苑者：問8】【支援学校：問7】【相談支援事業所：問4】

- ④ 福祉援護センターは、「指定管理者制度」により運営され、『公募』により事業者の選考を行っていますが、運営主体の選考方法について、どのようにお考えですか？

No.	回答選択肢	回答数	回答率
1	現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』	32	46.4%
2	『公募』による募集	15	21.7%
3	わからない	21	30.4%
—	無回答	1	1.4%
合計		69	100.0%



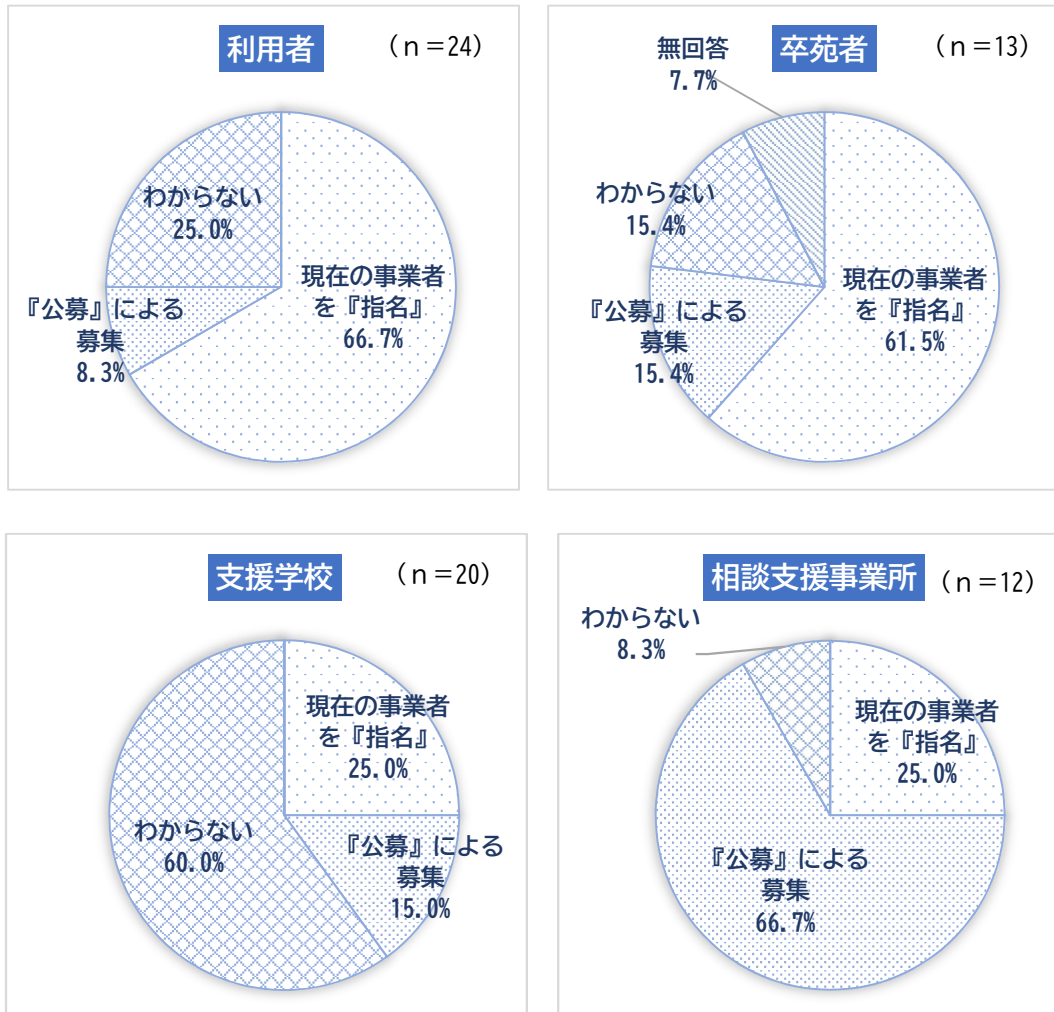
【参考】前回（平成 30 年度）のアンケート調査結果



※相談支援事業所への調査は実施していない

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ④選考方法

【利用者・卒苑者：問8】【支援学校：問7】【相談支援事業所：問4】



【回答選択肢ごとの各対象者の回答理由】

1 現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』	
■ 利用者	(理由記入数=11/選択肢回答数=16)
現在の運営で信頼して利用できている為	
とてもわからないから	
ひんばんに入れ変わることは利用者にとっても好ましいこととは思えません。公募の形は良いと思いますが、監査や市の援助、介入等でより良い支援を望みます。	
途中で違う事業者になり、今までと仕組みが変わってしまうと本人も親も戸惑ってしまう	
いろいろな人とのかわりが必要だと思うが、人ややり方のちがいがあるととまどうことが多くなり、不安に思うことがあるかもしれない。	

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ④選考方法

【利用者・卒苑者：問8】【支援学校：問7】【相談支援事業所：問4】

	・問題が改善され、より良い方向へ進んでいただきたい。 ・人員や環境の変化に敏感なので。 環境が変わると順応が出来ない。 給食を廃止されると困る。給食を出している施設があまり無いし、そういう所はいっぱい入れないし車イスはお断りという所もある 今のかがみ田苑が気に入っているの、このまま継続してほしい。 ・運営の専門性および継続性を鑑みると現在の事業者の『指名』で良いと思う。 現在の事業者で満足しているの。 人生経験を積んだヘルパーさん達や家族に障害のある方、大変な仕事をして下さっています。 利用者の安全を守り働くスタッフをもっと尊敬して下さい。 あなたに出来ますか？
■ 卒苑者	(理由記入数 = 7 / 選択肢回答数 = 8) 経験を活かして欲しい。(良い経験・悪い経験全て。) 鴨居デイサービスみたいな所に行けたらいいと思います。 このまま現状維持で変わらないで欲しいです。 長年運営してきたので実績があり、安心感がある 市の財政的にも民間業者の活用は必要不可欠と思いますが、やはり、公的施設(横須賀市主体)は必要であり、存続すべきです。 慣れているし、安心感がある これまでの通りであってほしい。 変る意味はよく分からない。
■ 支援学校	(理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 5) 大きな問題は無いと思われる 現在、うまく運営できているのであれば、事業者がかわることでの混乱がさけられると思うため。
■ 相談支援事業所	(理由記入数 = 3 / 選択肢回答数 = 3) これまで培ってきた運営のノウハウを活かしていけるため、特に問題がなければよいのではないかと考える。 民間ではやりきれない面(職員の処遇)が大きいと考える。 支援の難しい利用者の受け入れを民間ができるか心配。 長年かがみ田苑の利用者支援を行ってきたことで利用者支援に慣れているため。 ただし、施設長については未経験者では職員の育成、指導ができないため、外部の専門家を施設長にすることが望ましい。又はかがみ田苑職員の中から。 専門性と継続性が必要な施設として、第2期令和7年4月以降も利用者のための施設運営を行ってほしい。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ④選考方法

【利用者・卒苑者：問8】【支援学校：問7】【相談支援事業所：問4】

2 『公募』による募集

■ 利用者	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 2)
公募によって公正に、現在の事業者が選ばれるなら、それが良いと思う。	
■ 卒苑者	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 2)
可能性はあるが変わったことはない 同じ事業者が続くと問題も起きると思う	
■ 支援学校	(理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 3)
(理由記入なし)	
■ 相談支援事業所	(理由記入数 = 6 / 選択肢回答数 = 8)
指定管理者制度は、特定の事業者を指定する為のものではないと考えるため。なお書きの所の②の「特定の事業者を『指名』することができる」とあるが、専門性・事業の継続性という観点から見て、横須賀市社会福祉事業団でなければならないという理由が見いだせない為。	
高齢者のデイサービス、老人福祉センターを終了するとのことですが？	
仕切り直して良いのではないかと思います	
現実問題として、応募があるのかわかりませんが、指定管理、委託事業共に受託事業者が緊張感を持って事業に臨む必要があると考えています。	
市立の施設として、期待する意義や機能、役割、ビジョンに合致した団体等を選考していただければと思います。 ※そもそも指定管理者制度は、福祉に馴染むのか、将来に向けて適切な制度なのかといった検証も必要かと考えます。	
実績とイニシユアチブをつみかされてほしい*つ、事業運営主体は公募が望ましい。	

3 わからない

■ 利用者	(理由記入数 = 4 / 選択肢回答数 = 6)
どの様な違いが出てくるのかが良くわからない	
1名のみ、不安を感じるスタッフが居たため「わからない」にします。他のスタッフさんは全員、ありがたい存在ですので、この1名のことがなければ①を選びたいです。	
運営のことなんて考えたこともないのでよくわかりません。	
事業内容が大幅に変更（重度障害者にとって無理）になってしまわないか不安ではあります。	
■ 卒苑者	(理由記入数 = 1 / 選択肢回答数 = 2)
良くわかりません	
■ 支援学校	(理由記入数 = 2 / 選択肢回答数 = 12)
むずかしいことはわかりません。	
そもそも公募をして、よい利用施設なのか、十分審査を行っていると思いますが、実際、利用者が利用していると少し違うと思うことがあれば、どうなのかと思います。	

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ④選考方法

【利用者・卒苑者：問8】【支援学校：問7】【相談支援事業所：問4】

■ 相談支援事業所	(理由記入数 = 0 / 選択肢回答数 = 1)
(理由記入なし)	

▶ 調査結果【概要】

福祉援護センターの指定管理者の選考方法については、全体では「現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』」と回答した人が 32 人（46.4%）と最も多く、次いで、「わからない」が 21 人（30.4%）、『公募』による募集が 15 人（21.7%）という回答結果となりました。

参考までに前回（平成 30 年度）に調査した結果と比較すると、事業団を『指名』（継続）と回答した人は、前は全体で 77.8%でしたが、今回は 46.4%に下がりました。調査対象者ごとの回答率を見ると、「現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』」と回答した人は『利用者』が 16 人（23.2%）と最も多く、次いで『卒苑者』が 8 人（11.6%）、次いで、『支援学校』が 5 人（7.2%）で、『相談支援事業所』が最も低く 3 人（4.3%）という回答結果でした。

一方、『公募』による募集」と回答した人は、『相談支援事業所』が 8 人（11.6%）と最も多く、次いで、『支援学校』が 3 人（4.3%）、『利用者』と『卒苑者』は同数の 2 人（2.9%）という回答結果でした。

回答ごとの回答理由を見ると、「現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』」と回答した人については、『環境が変わると戸惑う』といった運営事業者が変わることに不安を抱くという回答理由のほか、『現在の事業者で満足している』といった回答理由がある中で、一部の相談支援事業所からは『施設長は外部の専門家またはかがみ田苑職員の中から選任することが望ましい』といった現在の運営状況を指摘する回答理由もありました。

また、『公募』による募集」と回答した人の回答理由を見ると、『公募によって公正に現在の事業者が選ばれるなら良い』や『同じ事業者が続くと問題が起きると思う』といった回答のほか、『専門性・事業の継続性から見て横須賀市社会福祉事業団でなければならないという理由が見出せない』といった様々な回答がありました。

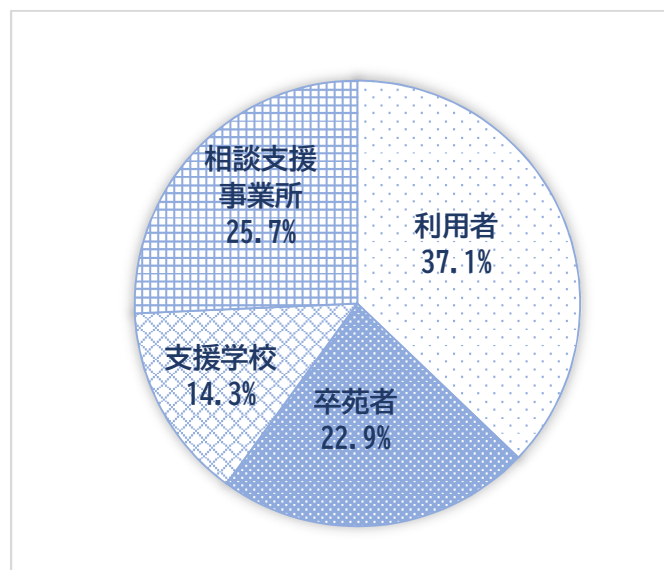
「わからない」と回答した人の回答理由については、『運営のことは考えたこともない』や『事業内容が重度障害者にとって不利になってしまわないか不安』といった様々な回答がありました。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

- ⑤ 各設問の回答欄に書ききれなかった内容やその他ご意見がある場合には、記入してください。

回答（自由意見欄）	回答数	回答率
利用者	13	37.1%
卒苑者	8	22.9%
支援学校	5	14.3%
相談支援事業所	9	25.7%
合計	35	100.0%



【調査対象者ごとの回答内容】

※自由意見は、同一の主旨のものについては集約し、長文や個人が特定される可能性のある回答内容等については、要約するなどして記載しています。

利用者	（自由記入欄記入数＝13／回答者数＝24）
良いスタッフが辞めてしまうので、優れた人員の確保をお願いしたい。 必要な時は緊急でなくても送迎が出来る様な体制を取ってほしい。 スタッフさん達には毎日感謝の日々です。 施設的环境、スタッフさんのプロ意識、大変ありがたいです。 （すでに施設には相談したが、1名の職員は距離感が近すぎて大変不愉快でした。） 利用者からスタッフさんへのハラスメントも問題ですが、利用者や利用者関係者に対してのハラスメントについて、スタッフさんにはメンタルカウンセリングを受けて頂くようなシステムがあればありがたいです。 子ども達は楽しく通っているのこの先も長く通えるようになることを願っています。 一般の企業にて働けるよう人手不足が解消出来るよう教育を行ってほしい。今1番必要な	

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

事である。

市内に福祉援護の施設はありますが、他害があると言う理由で断られるばかりです。本人は気持ちを受け取ってもらえないので手を出す事が多いが、この施設は本人をしっかり受け止めて頂けている(?)。勉強もしっかりして下さっている。ある施設にデイで面接の折、高次能機能障害は、その施設で専門ですと言われ安心して手続させて頂きましたが、中の職員は勉強していなく、こう言う事は困ると困らせてしまいました。本人は好きでこの様になってしまった訳ではないので、今までの様に仕事はしたいのですが、身体麻痺、高次能がある為行く所がないのです。かがみ田苑のような所をもう少し多く作って頂き、家から通える所があれば家族バラバラも先のばし出来るのですが。問6の事で高齢の親は共に死と考える事もありました。

地域施設の情報などを教えてほしい。情報は何も教えてもらえない。かがみ田苑しか行けてないので預かっていただく時間をもう少し長くして欲しい。

第一(B)に通っています。
6年の期限までまだ残りがありましたが、苑より年度末ぐらいに9月末をもってBが閉鎖と聞き、次の行先をさがしました。

提案ですが年限を設けない代わりに自立訓練事業を設置するのはいかがでしょうか。理由としては目標が明確であって、生活に直結したプログラム構成を組みやすいので、生活介護か就労系サービスに迷いのある利用者と保護者にとっていい選択肢になると思うからです。
保護者の方からも学校で自立訓練をしてもらっても進路先で何もしないので、せっかく身についた事ができなくなっていくという話をよく耳にします。
自立訓練を継続できれば学校で学んだことも個定化されやすくなると思います。

モニタリングについてですが、6年を超えている為、半年更新で契約をする必要があります。その為のモニタリングは納得していますが、その他に3ヶ月に一度自宅に上り込んでモニタリングする事について疑問に思います。
本当にこのモニタリングは利用者の為になっているのでしょうか？
また、相談員の職員が車で来る際の駐車する場所までこちらが用意したり、相談員の職員の対応についても、疑問に感じることや不愉快に感じる言動がありました。

親なき後を考えた時に、県内でも入所出来る場所がないという話をよく耳にします。自分の子供が全く知らない土地で、知らない人達の中、自分の意志も上手く伝わらないような状況で、暮らしていかなければならないと思うと、胸が痛くなります。
また、親が高齢化した時に、そのような状況で県外の施設を探したり、見学等であちこち何度も足を運んだりすることが出来るのかも不安です。
アンケートで各問に回答記入しましたが一番の不安は「親なき後」です。
相談出来る場所もありません。
重度障害者の居住支援のための機能をもつ場所を作っていただきたいと、強く希望します。

〇〇頃からかがみ田苑に通所しています。このまま事業者が変わることなく続いてほしいです。(大きな変化があると子供が不安定になるのでとてもしんどい為)
スタッフの方々も本当によくして下さい感謝しています。このまま継続しながらより一層のサービスの充実がしてもらえたらありがたいです。
よろしくお願い致します。

特になし

おそくなってすみませんでした。ありがとうございました。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

■ 卒苑者

(自由記入欄記入数 = 8 / 回答者数 = 13)

第1かがみ田苑が、はいしするのがとてもごんねんです。今でもずっとあったら、みなさんに会いたいと思います。

かがみ田苑にはたいへんお世話になりました。
無くてはならない場所です。
これからの管理、運営のあり方について検討を重ねて頂き、地域生活支援拠点等のサービスの役割向上を願っています。

私の息子は〇〇養護学校を卒業後、平成〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日までかがみ田苑に利用させて頂きました。卒業後の受入れ先として多動症の息子にとっても最良の施設でした。本人も保護者の我々も安心して子供を預けることができ。このサービスを今後とも維持して頂きたいと思います。
しかし知的障害のある子供達は微増し続ける状況において、かがみ田苑の長期在留者と入苑を待つ後輩達にとっては、深刻な問題と捉える結果となり両者に負担が増すばかりである。
私は息子のために、横須賀や神奈川県内での同入所施設を探し尽くしましたが、皆無だったので現在泣く泣く〇〇県内での同入所施設で生活を余儀なく暮しています。
さらに、神奈川県の方針では、今後5年間で県関連する同施設の収容人数を段階的に半減させる計画の検討が漏れ聞こえています。
SDGsの「誰一人取り残さない」グローバル社会を実現するためにも、知的障害者入所施設を県主体で今すぐに増やして頂けるよう切実に願っています。

特になし

とてもいい施設です。
是非存続して下さい。

これを書くにあたり現在かがみ田に通所されている親御さんに何か伝えたいことを聞きました。私の子供は、もうすぐ〇年目になる頃に、移行しました。とても不安でしたが、主人とも見学に行ったりして、決断しました。子供は実習も経て、すんなり受け入れてくれました。その事を言うと「自分の子だけは良くて、他の子の事考えてないように言われました。その前に重度で、どうしてもかがみ田から移行できない子供、障害者の方もいると言う話をしていたにも拘らずでした。やはり、重度障害者の方も、いろいろなタイプがあるので利用期限は1人1人の素質を考慮して決めて欲しいと思います。
職員さん方の休みを充実させてください。
3ヶ月、1回のモニタリングも無駄です。そんなに障害が変わることはありません。

かがみ田苑に〇年間通わせて頂いて感謝しています。
かがみ田苑が無くなる事はとてもショックでした。
このような施設を、内容を変えても良いので続けて欲しいです。
障害を持った子供達の行き場が今でさえ少ない横須賀市で、増やして頂きたいと思っていたので、減ってしまうとは本当に残念です。

【問9（自由意見欄）の回答用紙添付なし】

■ 支援学校

(自由記入欄記入数 = 5 / 回答者数 = 20)

自分の子は軽度なので、とても微妙な位置にいて、普通の子と変わらずの見た目が逆に出来ない子と思われたり、重度じゃないからといっても生きにくいところもあると思います。そのへんが世間には伝わらず、親としても子供の将来が不安です。
もっと障害の子供たちが働きやすい環境が整ったらいいないつも思います。
金銭面もそうです。
選べるほど職種もないし、せめて特例子会社など増えたらいいです。特に横須賀市内に。

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

施設を利用する側の意見は何も言えません。
支援学校にいても全くかかわらないこともありますね。

各利用施設で人で不足の話をよく聞きます。
たくさん施設を造ってもスタッフがいないばだめだと思います。スタッフの確保をお願いします。

かがみ田苑に人をふやすためには色々な企業からのサポートを手あつくして、協力してもらう様にしてくれるといいかなと思います。

そもそも福祉援護センターの在存を知らなかったです。
「かがみ田苑」という名も知らないです。どのような活動をされているのか何をしてもらえるところなのかわからなかったです。
私のような人間はもしかすると多いかもしれないですね。。障害ある子たちを支援していただける機関なのであればその在存をもっとアピールしてもらえるとありがたかったです。
自分たち亡きあとの障害ある我が子のことがとても心配なので親のかわりに面倒をみてくれる施設やスタッフ（安心して任せられる）の充実に力を入れてもらいたいです。

横須賀市は特別支援学校卒業後の就職先が少なく、遠くまで通うことが困難な場合には、就職したくても難しい。就職先の確保と、支援学校での学習内容の強化をお願いしたい。教師も、専門の方が少ないと聞くので、支援教育を学んでいる方の配置をしてほしい。

■ 相談支援事業所

(自由記入欄記入数=9/回答者数=12)

- ・指定管理者制度で管理をしている建物に、管理監督権のある横須賀市のOBが管理者としてに疑問（管理者の頻繁な交替や仕様書規定の運営がなされていない状況をどう説明するのか。）
- ・かがみ田苑の不祥事を鑑みると、存在意義を見出すことが難しく、また、事業団が指定管理を受け続ける事自体が疑問。次期選考から、事業団は外すべき。
- ・仕様書の努力義務に「150～200人のサービス等利用計画が作成できるよう、相談支援事業所としての体制の充実を図ること」とあるが、2022年資金収支計算書を見る限り、相談支援専門員の増員を図ることを目的として、委託料の増額がなされているとは到底思えない。

特にありません。

神奈川県の高強度行動障害支援対策事業が今後どのようなようになっていくのか？
県で実施していたものが、市町村で実施していくという流れになってくるのではないかな。
市で、行動障害の方の受入先が必要であり、また、高強度行動障害になる前の予防的支援が必要。支援を行うにあたっては、支援そのものの専門的スキルを要し、また、家族支援、関係機関の連携のための相談機能を充実させ、市内で中核となる事業所が、待ったなしです。
福祉援護センターのあり方のみならず、横須賀市のビジョンを示して頂きたいです。

北エリアの事業所です。
立地の課題はどうにもならないかもしれないが、遠方のため利用を断念しています。

関係事業者に事前説明もなく、新年度4月には事業を終了したと一方的に言われた。担当者も年度末に退職しており、本人の意向の説明もあいまいなまま、引き継がれていたのが困惑した。現場の大変さもわかりますが、もう少し支援への協力はほしいに思っていました。

立地がすばらしいので、地域に開かれた観光資源としての活用もあわせて考えられないだろうか？海一望のカフェ？など

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

- ・昔も今も、受け入れ施設や事業所からの話として「大きな声を出す方、他害のある方は、物を壊す方は、受け入れが難しいです。」といった言葉を耳にします。受け入れ側からすれば、その通りだと思いますが、どうすれば受け入れが可能になるのでしょうか？
- ・先日、ある母親から「私がいなくなったら、この子はどうになってしまうのか心配で、死ねない。」と話を伺いました。様々な法整備や施策が実施されてきたとは思いますが、今でも「親亡き後の問題」は解決していないという事実について何か手立てはないものかと感じています。今も、我々支援者や社会が自信を持って「ご本人の暮らしや幸せは保証します。だから心配しなくても大丈夫です。」と言える時代になると良いと感じています。
- ・障害者の方の地域移行が求められる中、特に強度行動障害を有する方の地域移行が進まないという背景としては、地域に移行先となる事業所がないことや地域で強度行動障害を有する方を受け止められる人的資源が少ないということ等が理由であると伺ったことがあります。この先、本当に国や県が推進している障害者の方の地域移行や地域生活は可能なのかと危惧しています。
- ・これからの日本を考えると、益々高齢化や人口減少が進む中、脆弱化していく地域、支え手が減少する福祉業界等々、この先、本当に障害を持つ方が安心して暮らしていくことは出来るのか心配でなりません。

市内の第1種事業ですら、指定管理がない中、第2種事業の指定管理は、現状の制度から合理性に欠けます。

困難ケースへの対応についても、教育と福祉が今以上の連携の中、地域生活を検討すべきです。

今までの指定管理機関の結果としての「地域力」の向上は見られません。

基本的な考え方を見なおす時期ではありませんか。

他の地域と比較しても、第2事業の指定管理はあまり聞いた事がありません。

支援学校卒業後対策（対応）についても、よく見えません。もっと地域課題として検討すべきことではありませんか。

管理者は外部からの導入ではなく、かがみ田苑で実績を積んだ職員がその位についた方がよい。

管理者（施設長）は最低5年、その任を続けて、その運営に責任をもつべき。

▶ 調査結果【概要】

各設問で書ききれなかった内容や意見等についての自由意見欄については、35人（50.7%）からの回答がありました。

調査対象者ごとに回答内容を見ると、「利用者」については、今後も引き続き長くかがみ田苑を利用したいといった回答がある一方、現在の運営にあたっての不満や不備などを訴える回答もありました。また、これまで利用可能な施設を探してきた苦勞や今後の不安についてなど、当事者としての切実さを訴える回答もありました。

「卒苑者」については、かがみ田苑に対するお礼や今後も存続を求める回答のほか、地域生活支援拠点等の今度の制度やサービス向上を願う回答などがありました。

「支援学校」については、将来についての不安や卒業後の就職先の確保とそのための人材確保を求める回答などがありました。

「相談支援事業所」については、現在の指定管理者や運営状況に対する様々な意見

3-3 アンケート調査結果 共通設問 ⑤自由意見

【利用者・卒苑者：問9】【支援学校：問8】【相談支援事業所：問5】

等のほか、神奈川県による障害福祉施策の影響や横須賀市に求められる支援やビジョン、障害福祉の現場における葛藤、今後も加速する高齢化等による社会の脆弱化への懸念や不安、指定管理制度としての見直しや検討など、様々な回答がありました。

4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）

【依頼通知文】

令和5年（2023年）6月26日

福祉援護センターをご利用されている方
及びその保護者の皆様

横須賀市民生局福祉こども部
福祉施設課長

横須賀市立福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方に関する アンケート調査へのご協力について（お願い）

日頃より、本市の障害者福祉の推進にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、指定管理者制度※により福祉援護センター（かがみ田苑）を運営しておりますが、令和7年3月末までの指定期間の満了を前に、今後の福祉援護センターのあり方について検討を行います。

あり方の検討を行う際の参考とさせていただくため、福祉援護センターのご利用者や支援学校の在校生（3年生）、市内の障害福祉サービス事業所を対象としたアンケート調査を行います。

つきましては、お手数をおかけしますが、下記によりアンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※「指定管理者制度」

民間のノウハウを活用しながら、市民サービスの向上と経費の節減を図ることを目的とし、地方自治体が所管する施設（公の施設）の管理・運営を民間事業者に委ねる制度です。現在の福祉援護センターの指定管理者は、「社会福祉法人 横須賀市社会福祉事業団」です。

記

1 回答方法

「アンケート回答用紙」の各設問の該当する番号に○を記入のうえ、設問に応じて理由等を記入してください。

※可能な限りご本人のご意向等をご確認のうえ、ご回答いただきますようお願いいたします。

2 提出方法及び提出期限

同封の返信用封筒に「アンケート回答用紙」を同封のうえ、令和5年7月31日（月）までにご返送ください。

（事務担当）横須賀市福祉こども部福祉施設課
施設第2担当 一澤・長島
〒238-8550 横須賀市小川町11番地
電話：046-822-8244 FAX：046-822-2411

4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）

【回答用紙】（1 ページ目）

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方に関するアンケート

【利用者】

アンケート回答用紙

※可能な限りご本人のご意向等に沿ってご回答いただきますようご協力をお願いします。
※記入誤りの際は、誤った箇所を二重線等で抹消してください。

（問1） 福祉援護センター（かがみ田苑）の何のサービスを利用していますか？
次の中から、あてはまる番号 12 に○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|----------|
| ① 就労移行支援 | ② 就労継続支援B型 | ③ 就労定着支援 |
| ④ 生活介護 | ⑤ 日中一時支援 | ⑥ わからない |

（問2） 福祉援護センター（かがみ田苑）の場所は通いやすいと思いますか？
次の中から、あてはまる番号 12 に○をつけて、その理由を記入してください。

- | | | |
|---------|--------|---------|
| ① 通いやすい | ② 通にくい | ③ わからない |
|---------|--------|---------|

理由：

（問3） 福祉援護センター（かがみ田苑）の卒苑後の行き先について、不安がありますか？
次の中から、あてはまる番号 12 に○をつけて、その理由をください。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ① 不安はない | ② 不安がある | ③ わからない |
|---------|---------|---------|

理由：

4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）

【回答用紙】（2 ページ目）

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方に関するアンケート

【利用者】

（問4） 福祉援護センターを卒苑した後の進路先として、どのような候補を考えていますか？
次の中から、あてはまる番号 **1つ** に○をつけてください。

- | | | |
|--|--|--------------------------------|
| ☐ 1 企業等への就職・就労 | ☐ 2 職業訓練機関 | |
| ☐ 3 通所施設（自立訓練） | ☐ 4 通所施設（生活介護） | |
| ☐ 5 通所施設（就労移行支援） | ☐ 6 通所施設（就労継続支援A型） | |
| ☐ 7 通所施設（就労継続支援B型） | ☐ 8 通所施設（作業所・地域活動支援センター） | |
| ☐ 9 入所施設 | ☐ 10 在宅 | ☐ 11 わからない |
| ☐ 12 その他 | | |
-

（問5） 福祉援護センターにどのような資質や意義、機能、役割を期待していますか？
期待する具体的な内容を記入してください。

（例1）市立の施設としての信頼性や安心感、公正性、公平性
（例2）高いサービスの質（支援に関する技術や知識、経験、専門性）
（例3）民間施設では受け入れが困難な重度障害者の受け皿（セーフティネット）
（例4）民間の施設や事業所では充足していない障害福祉サービス事業の実施
（例5）行事やイベントなどの自主事業の充実、地域との積極的な交流

期待する具体的な内容：

4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）

【回答用紙】（4 ページ目）

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方に関するアンケート

【利用者】

（問7） 福祉援護センターでは、市立の施設として多くの人に利用してもらうという公平性の観点と、訓練のための通過施設としての位置付けから、利用期限を6年としています。利用期限について、どのようにお考えですか？

次の中から、あてはまる番号 **1つ** に○をつけて、その理由を記入してください。

① 必要だと思う

→ 適当であると思う年数（あてはまる番号 **1つ** に○をつけてください）

- | | | |
|-------|------|----------------|
| ① 10年 | ② 8年 | ③ 6年（現在と同じ） |
| ④ 4年 | ⑤ 2年 | ⑥ その他（ 年） |

② 必要ないと思う

③ わからない

理由：

（問8） 福祉援護センターは、「指定管理者制度」により運営され、『公募』により事業者の選考を行っています。運営主体の選考方法について、どのようにお考えですか？

次の中から、あてはまる番号 **1つ** に○をつけて、その理由を記入してください。

（補足説明）

現在の指定管理者である横須賀市社会福祉事業団は、令和元年度に『公募』で選考されました。次期指定管理者の選考も『公募』で行った場合、令和7年4月以降の福祉援護センターの管理運営が社会福祉事業団以外の事業者になる可能性があります。

なお、指定管理者の選考は、原則として『公募』で行いますが、①施設の設置目的・性格から管理の代行者を特定することが適当な施設、②施設運営のための専門性と継続性が特に必要な施設については、特定の事業者を『指名』することができます。

① 現在の事業者（横須賀市社会福祉事業団）を『指名』

② 『公募』による募集

③ わからない

理由：

4 【参考資料】アンケート調査依頼・回答用紙（利用者用）

【回答用紙】（5 ページ目）

福祉援護センター（かがみ田苑）の今後のあり方に関するアンケート

【利用者】

（問9） 各設問の回答欄に書ききれなかった内容やその他ご意見がある場合には、記入してください。

自由意見欄

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返信用封筒により、令和5年7月31日（月）までにご返送いただきますようお願いいたします。

5 / 5

**福祉援護センターのあり方に関する
アンケート調査結果**
福祉援護センターのあり方に関する懇話会

横須賀市民生局福祉こども部福祉施設課

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

TEL : (046) 822-8244

FAX : (046) 822-2411